練習が技術をつちかい
技術が信頼を支える

きょうの反省を、あすの練習に、試合に結びつける……スポーツマンにとって、大切な心がまえです。常により高度な技術をめざしてチャレンジする——それはブラザーが目ざしているものと一致します。技術がチームメートの信頼を支えるように、お客さまの信頼に応えるのは、高度な技術に支えられた品質以外にないのですから——。

BROTHER
ブラザー
ブラザー工業株式会社
ブラザーミシン販売株式会社

今秋、中国で第2回アジア選手権

次回(一九八二)のア大会実施も有力

AHF総会

発足4年目を迎えたAHF(アジアハンドボール連盟)は、昨年12月10、11日の2日間、タイのバンコク・ハイアットラマホテルで第2回加盟国会議(総会)を行ない、日本からは、荒川清美理事長が出席、渡辺和美IHF理事も参加した。

総会には、加盟十五カ国のほか新たにネパール代表の顔が見えるなど、アジアハンドボール界の発展を物語るように、盛会となり、今後の連盟運営などに、活発な意見が、かわされた。

一昨年4月、クウェートで第1回大会を開き、日本が優勝した(=本誌第152号詳報)アジア選手権は、当初、イラクで、第2回大会が行なわれることになっていたが今回の会議で、中国が開催の名乗りをあげ、今秋11月、ナンキン(南京)を主会場に行うことが、正式決定した。

日本などは、すでに、IHF(国際ハンドボール連盟)が、モスクワ・オリンピックのアジア予選を、11月に開くよう指示していることなどから、アジア選手権は、4月または9、10月を主張したが通らなかった。

また、一九八二年、インドで行われる第9回アジア競技大会の実施競技に、ハンドボールが初めて加わることが確定的という報告が行われた。

ハンドボールは、一九七四年のAGF(アジア競技連盟)総会でアジア競技大会競技に、正式に加えられ(=本誌第124号詳報)、昨冬の第8回大会(バンコク)でも、いちじ、採用が噂されたが、タイにおける普及が充分でなく、見送られていた。

このほか、新たに、アジアスポーツ界に設立された「アジア競技連盟総連合」への参加も、決議され、アジアにおけるハンドボール活動は、かつてない勢いで進められることになった。

AHF組織の拡充については、技術、審判、研究、医事など各部門にわたって、本格的なスタッフ編成を進めることが、申し合わされた。日本協会では、すでにAHFに派遣する人選を行ない、渡辺慶寿氏(強化部長、理事)が、AHFコーチ・技術委員長の有力候補になっている。

上旬に選手権、下旬に五輪予選か 今秋11月

IHF理事・渡辺和美氏(東京協会会長)は、1月26日、東京でAHFの決めた第2回アジア選手権(男子のみ)の日程を、今秋11月15日までに終了するようAHFに要望することを、明きらかにした。

これは、IHFが、モスクワ・オリンピックの男女アジア予選を11月20日から31日までの内と決めているためである。同予選の開催地は韓国が有力。

なお、渡辺氏は、中国でのアジア選手権に、IHF首脳が招待されているとも語った。

ア大会正式決定は延びる

AGF(アジア競技連盟)は、12月18日、バンコクで評議員会を開き、82年の第9回アジア競技大会について協議、注目の実施競技は、開催国インドが、突然、ゴルフを加えたいとしたことから、各国が、いっせいに追加希望競技を持ち出し、収拾がつかず、最終的には「開催国が、実施競技を選ぶ」ことでまとまり、この日は、具体的に競技名が発表されなかった。

しかし、消息筋は、ハンドボールとスカッシュの実施は確定的とみている。

▽

ハンドボールなど、12のアジア競技連盟は、12月17日、バンコクで会合、「アジア競技連盟総連合」の設立を決めた。

同連合の設立については、一部の連盟が、慎重論をとなえたが、アラブ諸国が強い影響力をもつハンドボールなどが、即日設立を強調、実現の運びとなった。

東ドイツ女子来日

日本協会は、1月18日東京体育館で、世界女子選手権2連勝の東ドイツ女子ナショナルチームが、2月9日から17日まで来日、国内で4~5試合を行うことが決まった、と発表した。

東ドイツは、12月の世界選手権で、史上初の2連勝(本誌12~16頁)した現代最強チーム。

日本協会は、昨春、いちどは来日が決まりかけながら、その後、交渉が途絶えていたものを、世界選手権連覇後、再び熱心に交流を希望、ようやく、快諾を得た。

国内日程は、本誌〆切りまでに未発表だが、東京、大阪などで全日本が対戦の予定。

「ハンドボール」 54年1月号(第170号)目次

【表紙写真】第30回全日本総合選手権男子決勝・大同特殊鋼×湧永薬品戦。大同の攻撃
(提供・スポーツイベント)

ブラザー工業、宿願の全国タイトル

〜全日本総合選手権、30回迎う〜

男子は大同特殊鋼が二連勝五度目

今年度のナショナル・チャンピオンチームを決める第30回全日本総合選手権は、新春1月17日から21日まで東京体育館に、男子24、女子16のトップチームが集まり、激戦を演じた。
男子は、久々に学生勢が健闘して大会を盛りあげ、ベストエイトに3チームを送りこんだ。また、クラブチームのコンドルス（茨城・教員）も奮戦、準々決勝進出を果たすなど、ナックアウトシステム（一本勝負）ならではの展開となった。
しかし、準々決勝以降は、さすがに日本リーグ勢が強味を示し、学生チャンピオン・日体大（東京）が、8年ぶりの四強入りを果たした以外は、日本リーグ上位3チームが激突。近来にない白熱した準決勝のあと、決勝は、3年連続して大同特殊鋼（愛知）×湧永薬品（広島）の顔合せとなり、湧永が押し気味に試合を進めながら、土たん場で、大同の反撃を許し延長戦、大同は、一気に主導権を握り、劇的な優勝を決めた。2年連続5度目。大同はこれで、日本リーグ、国体、全日本総合と〃三冠〃を獲得、2度目の四冠王へ、大きく前進した。
女子は、予想どおり、日本リーグ勢が、学生、クラブを圧倒したほか、来シーズン、リーグ返り咲きの大和銀行（大阪）が八強に名乗りをあげ、激しいつぶし合いを演じた。
その結果、日本ビクター（茨城）とブラザー工業（愛知）が勝ち残り、初対決でクイーンの座が争われた。リーグ一位のビクターは、前半、順調にリードを奪ったが、後半、ブラザーが素晴しい闘志で逆転、宿願の全国大会初優勝を遂げ、30回記念大会を飾るにふさわしい熱戦絵巻を彩った。
なお、この大会が1月に行われたのは、第1回（昭和25年、愛知県一宮市）以来のこと。次回は、再び年末に戻し、今冬12月12日から17日まで東京体育館で開かれる。

男子（24チーム）

▽1回戦

日大（学・東京）22（8−10、14−9）19 東京教員（開催地）

スワロー（教・兵庫）23（10−14、13−7）21 明大（学・東京）

日体大（学・東京）41（16−4、25−7）11 セブンスターズ（社・三重）

東京重機（実・東京）25（9−9、9−9、2−2、1−1、2−2、2−0）23 法大（学・東京）

湯沢ク（社・秋田）30（17−9、13−10）19 熊本教員（教・熊本）

中大（学・東京）26（7−12、19−9）21 鹿児島ク（社・鹿児島）

丸善石油下津（実・和歌山）21（12−8、9−11）19 自衛隊勝田（自・茨城）

名城大（学・愛知）17（8−9、9−3）12 日鉄建材（実・大阪）

○…第1日には、シードチームが登場せず、小さなせり合いはあったものの、順当な結果に終った。
しかし、揃い踏み（2回戦進出）の期待された学生勢は、名城大が初出場の日鉄を降し、日体大、中大などが完勝したものの、法大、明大は不覚をとった。
重機×法大は、残り10分18−15と法大が3点差をつけていたが、このあと攻撃が雑となり、相手の反撃を許し延長戦。延長後も法大有利の展開で進んだが、重機は左腕奥山の好プレーを軸に粘り第2延長。ここでも、法大が宮本の連取で、23−21としながら、残る6分間に重機の奥山、千葉、佐藤にたてつづけにゴールを奪われ押し切られてしまった。
法大の不甲斐なさというより、重機の粘りが激賞される一戦だ。
スワロー×明大は、後半、辻を中心とした明大の追いあげで白熱したが、スワローは、前半、松岡を中心にかせいだ点差を守り、逃げこんだ。
好カードとみられた日大×東京教員は、教員側に元日大の切り札で、現コーチの新井田が居るため日大はやりにくそうだったが、残り5分18−17から一気に攻めこんで突き放した。教員は平岡が当り、互角の戦況、勝ち越し機もあったが、相手GKの堅守などあって、チャンスを逃した。
丸善×勝田も、いいせり合いだった。動きでは額賀を主軸の勝田が優っていたが、丸善は後半なかばすぎ、ようやくエンジンがかかり15−16から一気に18−17へ逆転さらに塩崎、松本が追加点して勝利を握った。
熊本教員、鹿児島クの九州勢はそれぞれ精いっぱいの健闘、本田技研OBの異色クラブ・セブンスターズも張り切っての登場だったが、勝利を得るまでには、いたらなかった。

日体は大崎、中大は三景降す

日大も三陽商会に勝つ

▽2回戦

本田技研鈴鹿（リ・三重）36（22−9、14−9）18 スワロー兵庫

日体大19（14−7、5−11）18 大崎電気（リ・埼玉）

日大24（10−13、11−8、1−1、2−0）22 三陽商会（リ・東京）

日新製鋼（リ・広島）26（9−12、17−11）23 東京重機

中大20（9−11、11−8）19 三景（リ・東京）

湧永薬品（リ・広島）43（22−5、21−11）16 湯沢ク

大同特殊鋼（リ・愛知）40（21−9、19−5）14 丸善石油下津

コンドルズ（教・茨城）24（14−7、10−8）15 名城大（学・愛知）

○…学生三強が日本リーグチームを食って、コートサイドを沸かせた。
なかでも、日体大は、後半5分6−13と7点差をつけられていた劣勢をはね返し、残り3分16−18からもののみごとに逆転した。

大崎は、前半、左腕・斉藤のダイナミックなプレーで、日体ディフェンスを攻め崩し、後半も順調に滑り出した。

ところが、5分をすぎてから、日体大の突進に、守備陣が次第に押しこまれるようになり、15分12—13まで詰められた。ここで大崎は、GK岡部の速攻パスのボールが、カットしようとした日体GK・FPの手にあたって無人のゴールに入る幸運があり、態勢をたて直し、勢いにのった日体の攻撃に追われながらも、長野の連続ゴールと椿原で、26分18—16とした。

日体の健闘も、ここまでかと見えたが、27分辻本の豪快なシュートで17—18と再び元気づき、28分30秒越前でタイ、残り53秒、船木が右サイドから飛びこみ大逆転した。大崎は、後半3分から2分間1得点という貧攻が敗因だが、日体GK井藤の好守を、ここでは賞したい。

○…日大×三陽も、日大の元気勝ち。三陽は残り1分で得たPTを関が決めて22—21、勝利はまず間違いなかったのだが、そのあとの50秒余りを守り切れず、残り6秒、日大・山口哲に右サイドから絶妙のショットを許し延長へ引きずりこまれた。延長後40秒、三陽は、再び関で先行したが、追加点がなく、攻め口をつかんだ日大が山口哲、今井でポイント、殊勲をあげた。両軍GKの美技が応酬されて見応えがあったが、三陽は、いちぢ4点差をつけられるなど、いささか、相手を甘くみていたようで、それが、最後のリードをキープできぬ失敗につながった。

○…中大×三景は、日本リーグ不振の汚名を挽回しようとする三景が、後半8—12から激しい追撃をみせ、面白い試合になった。

しかし、中大は後半13分13—14とされたあと、猪野、由利で3点連取したのが大きく、20分すぎ、三景は鈴木、村田、島中らで必死に追いあげ、28分19—20と詰めたのだが、及ばなかった。

日新が重機にてこずった。日新は、後半5分19—11と大差をつけたのだが、重機は試合を捨てず、雨宮、千葉、卯野らが速攻から交互に得点、21分22—23と、信じられないような反発力を示した。

あわてた日新は、23分脇若で2点差、重機も千葉で追いすがったが、そのあとは、守りを固めた日新陣を突き切れず、残り5分から日新は2点を加え、どうにか勝ちあがった。

○…コンドルズ×名城大は、戦前の予想では名城有利だったが、主力の四年生が姿を見せず、前半はともかく、後半は、中村、根本らコンドルズの試合運びが、若い名城大を押しまくった。

大同、湧永、本田のビッグスリーは、まったく危気ない試合ぶりで、駒を進めた。

歴代ナショナルチャンピオンチーム

	年	【男子】	【女子】
	昭12	大塚ク（東京）	……
	昭13	日体（東京）	……
	昭15	日体（東京）	倉敷高女（岡山）
	昭17	日体ク（東京）	倉敷高女（岡山）
		～以上　戦前の全日本選手権～	
①	昭25. 1	日体桜（東京）	愛知ク（愛知）
②	昭25. 11	スワロー松（東京）	全山梨（山梨）
③	昭26	スワロー（東京）	芙蓉ク（東京）
④	昭27	セントポールA（東京）	（休会）
⑤	昭28	全日体大（東京）	全静岡城北高（静岡）
⑥	昭28	全日体大（東京）	全静岡城北高（静岡）
⑦	昭30	西日本日OB体（福岡）	水海道二高（茨城）
⑧	昭31	全日体大（東京）	半田高（愛知）
			～以上11人制～
⑨	昭32	全日体大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑩	昭33	全日体大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑪	昭34	○芝浦工大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑫	昭35	○芝浦工大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑬	昭36	○芝浦工大（東京）	愛知紡績（愛知）
⑭	昭37	大崎電気（東京）	愛知紡績（愛知）
		～以上11人制～	
⑮	昭38	○立教大（東京）	大洋デパート（熊本）
⑯	昭39	大崎電気（埼玉）	大崎電気（埼玉）
⑰	昭40	大崎電気（埼玉）	大洋デパート（熊本）
⑱	昭41	全立教（東京）	大崎電気（埼玉）
⑲	昭42	大崎電気（埼玉）	田村紡績（三重）
⑳	昭43	全立教（東京）	大洋デパート（熊本）
㉑	昭44	全立教（東京）	大洋デパート（熊本）
㉒	昭45	大崎電気（埼玉）	大洋デパート（熊本）
㉓	昭46	大崎電気（埼玉）	日本ビクター（茨城）
㉔	昭47	湧永薬品（大阪）	東京重機工業（東京）
㉕	昭48	大同製鋼（愛知）	日本ビクター（茨城）
㉖	昭49	大同製鋼（愛知）	東京重機工業（東京）
㉗	昭50	大同製鋼（愛知）	日本ビクター（茨城）
㉘	昭51	湧永薬品（広島）	立石電機（熊本）
㉙	昭52	大同特殊鋼（愛知）	日本ビクター（茨城）
㉚	昭54. 1	◎大同特殊鋼（愛知）	ブラザー工業（愛知）

・◎印は日本リーグとの二冠
・○印は全日本学生選手権との二冠

日体大、8年ぶりに4強へ
大同ら強豪は順当勝ち

▽準々決勝

本田技研鈴鹿 21（11—6、10—3）9 日大

【日大】		得
GK	大畑	0
GK	須藤	0
FP	山口哲	2
FP	高梨	3
FP	金岡	1
FP	仲田	1
FP	早坂	0
FP	生井沢	0
FP	堀越	1
FP	堂尻	0
FP	今井	1
FP	山口剛	0

【本田】		得
GK	柴田	0
GK	細野	0
FP	田上	10
FP	喜井	4
FP	高橋	0
FP	佐々木	0
FP	佐藤	5
FP	豊岡	1
FP	矢野	1
FP	西田	0
FP	松永	0
FP	水本	0

（寝・由利、森）

21（4）PT（0）9

○…開始しばらくは、ともにミスが多く10分1－1、11分日大は山口哲で2－1と先行したが、本田は田上が、二本のPTを含む単独4点連取で、あっさり逆転。そのあとは、日大に、まったく、つけこむスキを与えず、順当勝ちした。

日大も、よく頑張ったが、本田の強力ディフェンスを突破するだけのスピードがなく、後半なかば散発的に得点しただけに終った。（佐野和夫）

日体大 17（8－5、9－6）11 日新製鋼

【日新】		得
GK	三田	0
GK	筒本	0
FP	脇若	2
FP	吹上	3
FP	泉	1
FP	徳田	1
FP	大庭	1
FP	下茂	3
FP	森	0
FP	湯中	0
FP	日野	0
FP	高木	0

【日体】		得
GK	井藤	0
GK	信貴	0
FP	工藤	0
FP	越前	1
FP	船木	3
FP	辻本	3
FP	松井	10
FP	阿部	0
FP	名嘉	0
FP	伊藤	0
FP	長野	0
FP	坂本	0

（審・大塚、佐分）

17（3）PT（2）11

○…開始4分に辻本のサイドからの得点で先行した日体大は、日新陣内で積極的な攻めをみせ、二本のPTを活かしたこともあって23分6－2とリードをつづけた。

日新も、再三、いい型になりながら、詰めの甘さから、反撃の足がかりがつかめない。27分4－6としながら、直後、日体・松井に2点を奪われてしまった。

後半も同じような展開。日新はなんとかリズムを変えようと試みるが、日体の一線ディフェンスとGKの守りが固く、21分11－14まで、そのあと無得点。日体大は日本リーグ勢に連勝するとともに46年以来8年ぶりの準決勝進出を決めた。（山下勝司）

男子準決勝・湧永×本田技はエキサイトした試合となった。本田技の攻撃（スポーツイベント提供）

湧永薬品 33（17－7、16－12）19 中大

【中大】		得
GK	岩木	0
GK	鷹巣	0
FP	由利	10
FP	高山	1
FP	和智	0
FP	猪野	2
FP	森	2
FP	植木	0
FP	西川	3
FP	小柳	0
FP	藤井	1
FP	松原	0

【湧永】		得
GK	福井	0
GK	大城	0
PF	松本	4
PF	山本	5
PF	戸田	3
PF	藤本	2
PF	津川	5
PF	穂積	7
PF	生駒	2
PF	池ノ上	5
PF	原田	0
PF	内田	0

（審・光島、狩野）

33（3）PT（6）19

○…湧永の守備力が、中大を最後まで封じこんだ。

中大は、20分までに4ゴールしかあげられなかったが、そのうち2点はPT。まったく攻撃の芽をつみとられていたといえる。

こうなると試合は一方的。湧永は、前半15分までは、中大の様子を探るような試合ぶりだったが松本の連続速攻などから一気に加点前半で勝負を決めた。

中大は、後半10分すぎ、由利、藤井らで4点連取の場面があったが、焼石に水だった。（佐分正典）

コンドルズ、健闘及ばず

大同特殊鋼 26（12－4、14－9）13 コンドルズ

【コン】		得
GK	大村	0
GK	谷萩	0
FP	池田	7
FP	中村	4
FP	立原	0
FP	塚田	0
FP	高野	1
FP	根本	1
FP	大川	0
FP	福永	0
FP	松金	0

【大同】		得
GK	柳川兄	0
GK	大園	0
FP	柳川弟	1
FP	蒲生	7
FP	花輪	2
FP	松原	1
FP	中本	0
FP	大原	10
FP	中井	1
FP	藤中	4
FP	浦田	0
FP	小野	0

（審・千野、斉藤）

26（2）PT（1）13

○…前半、鋭さのない大同の攻守をついて、コンドルズは15分までピタリとついていたが、やはりしだいに総合力の差が現れ、大同ペースとなった。

しかし、本来の大同らしさが出たのは後半で、前半は9点目から10点目をあげるまで7分間もかかるなど、よいデキではなかった。

コンドルズは、引きはなされたあとは、得意の型にならぬ限り、ゴールを割れず、積極的に大同ディフェンスを攻め崩そうというファイトに欠けた。

湧永、後半開始直後に巧さ

大同は善戦の日体制す

▽準決勝

湧永薬品 19（10―7、9―8）15 本田技研鈴鹿

【本田】		得
GK	柴田	0
	細野	0
FP	田上	3
	佐藤	7
	豊岡	3
	喜井	2
	佐々木	0
	高橋	0
	谷元	0
	西田	0
	矢野	0
	水本	0
	PT	（1）15

【湧永】		得
GK	福井	0
	今井	0
FP	穂積	6
	津川	1
	戸田	3
	山本	2
	松本	3
	藤本	1
	池ノ上	3
	生駒	0
	内田	0
	原田	0
	PT	19（0）

（審・大塚、佐分）

○…国内の試合では珍しいほどの荒れようだった。

その気迫が、前半は互いに、巧く作用して、スケールの大きい攻防戦となり、湧永が戸田の活躍で10分4―1とすれば、本田も豊岡のロング連発などで20分5―6、26分田上で7―7と盛りあげた。

このあと、湧永は28分松本、29分穂積、本田は28分20秒佐藤とゆずらず、興味を後半へつなげた。

しかし、勝負のヤマ場は、意外に早く来た。

後半開始直後、湧永は1分穂積の鮮やかなジャンプシュート成功で勢いづき2分山本、3分戸田であっという間に12―8と差をつけたのだ。本田にとって、この3連失点は、最後まで負担となり、結局は勝敗を色分けた。

本田は6分佐藤で1点を返したが、湧永はすぐに松本が取り返すこの繰りかえしが20分までつづいて17―13とスコア（4点差）はかわらなかったが、内容は、前半とはうってかわったラフゲーム。

判定をめぐって、両チームともエキサイトした表情を露わすなど〝因縁試合〟めいた感じさえうけた。

技術的には、ミスの多少が、勝負につながったが、本田は、ここぞという時に、相変らずのもろさがある。

前半28分30秒、8―8と追いつきながら、直後に、あっさりリード点を許したり、ポイントとなった後半開始後の3点にしても、何か一つ、リズムを狂す策があればと思われた。

また、この試合、両チーム似たようなユニホームで対戦したが、この不注意の責任の所在は、どこにあるのだろうか。

男子決勝・大同×湧永は近来にない好試合。湧永・池ノ上の攻撃を防ぐ大同ディフェンス（スポーツイベント提供）

大同特殊鋼 20（12―9、8―5）14 日体大

【日体】		得
GK	井藤	0
	信貴	0
FP	工藤	2
	越前	3
	船木	4
	辻本	2
	源野	0
	松井	2
	坂本	1
	阿部	0
	長野	0
	名嘉	0
	PT	（1）14

【大同】		得
GK	柳川兄	0
	大園	0
FP	中井	1
	花輪	3
	蒲生	4
	大原	4
	松原	1
	柳川弟	4
	藤中	1
	中本	1
	浦田	1
	小野	0
	PT	20（2）

（審・千野、斉藤）

○…50年の中大以来、久々にベストフォアへ顔を並べた学生チーム・日体大の試合ぶりに注目が集った。

しかし、大同はさすがに巧者。ある程度の苦戦を覚悟しながら、じっくり相手の乱れを待つという策に出て、成功させた。

今年の日体大の強さは、工藤の守りにおける好リードと、GK井藤の堅いプレーにある。

この試合でも、その特長がよく現れ、前半の8失点はしかたのないものばかり、問題は、攻撃面でいつ、ペースを握れるかだった。

後半開始と同時に、日体は、待ちに待ったチャンスをつかんだ。

1分坂本、2分工藤で7―8、4分相手に1点を与えたが6分PTで8―9、さらに7分GK井藤―辻本の鮮やかなワンパス速攻で同点としたのだ。

大崎戦の逆転も、こうしてつかんだだけに日体ベンチは好ムード

一方、大同は中井、蒲生が負傷してしまい苦しい表情をみせながらも、いかにも王者らしい試合ぶりで、この〝ピンチ〟を逃れた。

試合後、大同・野田コーチは、こう説明した。「時間は、まだ20分以上残っていた。同点にされてもウチはなんともない。しかし日体大は、一気にたたみかけてくるだろう。蒲生を欠いて苦しいが相手に点さえやらなければいい。守っていさえすればいい。

そのうちに、相手は焦ってミスを出すに違いない」と。

○…はたして、日体大は、同点

（9—9）のあと10分間ノーゴールだ。しかも、この間に、辻本が反則であげられた。大同はPTと柳川弟の速攻などで16分12—9、さらに復帰の蒲生がいきなり決めて13—9、完全に主導権を握った。

なんとかしたい日体大は、あきらめず突進するが、どうしても同じテンポ。大同GK柳川兄に軽く捌かれ、しかも守りでは、それまでの歯車が狂って、21分以降5分間に5失点という崩れをみせ、悲願の決勝進出は成らなかった。

大同全選手のもつ試合運びの巧さが、日体大の若さを制したといえるが、日体大の健闘は、大いにたたえられていい。

残り30秒、蒲生が同点

▽決勝

大同特殊鋼 21（7—6、9—10、2—0、3—3）19 湧永薬品

得	【大同】		【湧永】	得
0	柳川兄	GK	福井	0
0	大園	GK	今井	0
4	藤中	FP	津川	2
3	蒲生	FP	積穂	1
5	花輪	FP	松本	6
3	大原	FP	藤本	0
6	柳川弟	FP	戸田	1
0	中本	FP	生駒	4
0	松原	FP	池ノ上	1
0	浦田	FP	山本	4
0	小野	FP	内田	0
0	中井	FP	原田	0
21	（2）	PT	（4）	19

（審・千野、斉藤）

○…大同がエース蒲生の起死回生のシュートから生き返った。試合は互いに手の内を知りつくした同士とあって、スタートから熱戦をくりひろげた。

前半は、大同が7—6とリードだが、湧永は、後半18分すぎから得意の速攻で反撃、19分山本が逆転のPTを決め、さらに松本、生駒らのシュートで16—13と3点差をつけ、2年ぶりのタイトルを手にしたかにみえた。

○…ところが大同は、25、28分に柳川弟がシュートを決めて1点差に迫り、29分28秒、それまで湧永のマン・ツウ・マンディフェンスにまったくいいところがなかった蒲生が、左45度からのフリースローで、豪快にジャンプシュートを決め、延長に持ちこんだ。

こうなれば追うものの強み。大同は、延長前半1分柳川弟が、2分にはパスカットから蒲生が速攻を決めて、湧永を突き放した。

（共同通信戦評から）

大同・中浜大輔監督の話 こんなに苦しい優勝は初めて。

残り5分を切って3点差をつけられた時は、負けたと思った。

中井が負傷(日体大戦)で出られず、そのために守りが最後までピリッとしなかった。

蒲生がマークされるのは、充分承知で、〝五人攻撃〟を練習してきたのだが、あんなに点をとられるとは思わなかった。

蒲生は、ムチ打ち症状で、ベストではなかったが、あそこでよく決めてくれた。

こうなったからには、2月の全日本実業団にも勝って、ぜひ、二度目の四冠王を飾りたい。

キングの座・大同特殊鋼

□…強気でなる大同ベンチも、いちどは「敗戦を覚悟した」（中浜監督）ほどの苦闘。

それを乗り切って、というよりも、言葉は悪いが〝火事場のくそ力〟よろしく、勝利を奪いとってきたのだから、改めて、このチームの底力には、脱帽せざるを得ない。

□…逆転の殊勲者は三人いる。土たん場で、同点フリースローを決めた蒲生は、衆目の一致するところ。

あとの二人は、柳川兄弟だ。後半なかば、いちど手にした主導権を失った大同が、ともかくも、蒲生の起死回生のフリースローにつなげられたのは、点差を開かれても、ていねいな守りの姿勢を崩さなかったGK柳川兄のプレーが大きい。

□…守りの主軸・中井を負傷で欠いた大同だけに、ここで乱れれば、いかに反発力のある攻撃陣でも追いつけなかったろう。

柳川兄はよく耐えた。味方の反撃を信頼しての守りだった。

勝負強さの直価 示した柳川兄弟

その期待に応えたのが弟である。残り4分30秒で3点差（13—16）は、〝絶対絶命〟の局面だったが、26、28分の速攻機に、驚くべきスピードと、冷静な判断力で、湧永陣へ単身なだれこみ、連続ゴール。15—16とし、蒲生の〝一投〟を呼んだ。

□…この兄弟は、もともと非凡な力がある。一九七四年の第8回世界選手権（東ドイツ）には、揃って代表となる〝快挙〟を遂げ、弟はそのままナショナルにとどまり、モスクワを狙っている。

二人とも、ビッグゲームほど、勝負強さの真価を発揮する。まさに、この一戦は、うってつけの舞台だった、といえよう。

延長後、兄は6分間完封、弟は〝先制〟の1点とダメ押し点を叩き出した。

優勝を告げるホイッスルが鳴って、兄弟は目と目を見合せた。

それで充分であった。彼らにとっても、2連勝5度目の優勝である——。

（杉山）

日本リーグ勢勝ち進む

女子（16チーム）

▽1回戦

プラザー工業（リ・愛知）14（9—3、5—8）11 日体大（学・東京）

大崎電気（リ・埼玉）18（11—5、7—6）11 日女体大（学・東京）

立石電機（リ・熊本）24（11—6、13—4）10 武蔵野ク（開催地）

日立栃木（リ・栃木）20（12—6、8—6）12 東女体大（学・東京）

北国銀行（リ・石川）18（9—4、9—4）8 東北ムネカタ（リ・福島）

ジャスコ（リ・三重）28（16—3、12—3）6 京都ク（社・京都）

日本ビクター（リ・茨城）40（22—2、18—2）4 和歌山県商工信用組合（実・和歌山）

大和銀行（実・大阪）12（5—7、7—4）11 東京重機（実・東京）

〇…男子学生勢の活躍に刺激されて、女子学生チームが、どこまで日本リーグに挑むか、関心がもたれたが、三校とも〝善戦〟が精いっぱい。

期待の東女体大は、立ちあがり5分間に、いきなり4点を奪われハナから防戦一方となった。

日立は、スピードのあるタテの突込みからチャンスをつかみ、水上のロング、吉田のサイドなど、多彩な攻めでポイントした。

東女体大の攻撃力は、最近の学生界ではスピード、技術とも抜群という前評判だったが、やはり、日本リーグでもまれている日立のディフェンスを切り崩すまでにはいかず、後半6分9—13としたところまでだった。

日体大も、若手主力とはいえ、「六分程度のデキ」（白神監督）というプラザーに、開始12分で早くも7—1と差をつけられてしまい、完敗だった。

プラザーは、後半9分14—5としたところで、メンバーを若手に切り替えたため、そのあと15分間ノーゴール、日体大の石井、矢野の攻撃に連続6点を失ったが、余裕を残して寄り切った。

〇…進境著しく、あるいは準々決勝進出といわれた日女体大も、前半12分7—1、あっさり勝負を決められてしまった。

女子の学生チームは、リーグ戦でも、プレーにスピードが乗ってくるまで、かなり時間がかかる。

ウォーミングアップに問題があるのではなく、なかなか〝場なれ〟しないのだ。

男子学生にもいえることだが、自分じゅうぶんの型になって、始めて実力を出せるというのでは、〝全日本〟には通じない。

日女体大、東女体大、日体大が序盤で、簡単に主導権を失ってしまうのは、社会人チームの先制攻撃の巧さというより、このウイークポイントをつかれた、といえるだろう。

日女体大は、後半、梅木を中心に頑張ったが、試合の大勢をくつがえすには、遠かった。

〇…日本リーグ同士・北国×ムネカタは、後半なかばから北国がGK酒谷のロングスローが決まるなど、やや一方的となったが、それまでは、さすがに白熱した。

特に、後半5分5—10とリードを許したムネカタが、清水、川音らで8—10まで詰めた場面は、両チームの激しい闘志がぶつかりあい、見応えがあった。

ムネカタが、ここで、あと1点加えたら面白かったが、北国は、この直後のPTを千歩が決めて一息つき、リズムを取り戻した。

実業団同士・大和×重機は、コートサイドで〝因縁試合〟の声がとんだ。

両チームが、エキサイトしていたわけではない。昨秋、日本リーグへの復帰を望んで、入れ替え戦に出場、大和は成功、重機は失敗に終っている。

入れ替え大会で、両チームの対戦は組まれず、それだけに、今大会での顔合せが、注目されたのだ

選手よりもベンチ、特に、大和側の緊張は大変なもの。

重機は、その相手の固さをついて、二本のPTを含め、10分5—1と好スタート、20分には7—2と開いた。

大和は、点差をつけられ、かえってプレーに動きが乗った。重機がPT失敗を繰り返す間に反撃、前半終了間ぎわ、3ゴールを連取

さらに、後半もテンポの出た攻撃で加点、6分8—9まで詰めた。

重機は10分沖山で10—8と、主導権を握りなおしたかにみえたが大和は千原の連続ゴールでタイ（10—10）、16分宮本で、ついに勝ちこした。重機も17分池田で、すぐ追いついたが、試合の流れは大和のもの、23分のPTを増永が、ていねいに決めて、大接戦にケリをつけた。

〇…日本ビクター、ジャスコ、立石電機らは、手加減しながらも相手ゴールをたてつづけに割り、特に、ビクターは、40点、36点差の大会新で圧勝。（これまでの最高は、42年の大崎電気35—0宗形製作所（大阪））

京都ク、武蔵野クの両チームは悪条件をこえての登場だったが、どちらも攻め口が二〜三本。これを覚えられると、あとは個人技に頼るだけで、完敗も仕方なかった

和歌山県商工信用組合は、日本

リーグが、加盟（二部）を熱心に誘っているチームだが、あまりにも駒不足。痛々しい試合ぶりだった

日立、立石に延長で惜敗
北国、ジャスコに及ばず

▽準々決勝

ブラザー工業 21（12－5、9－8）13 大崎電気

得	【ブエ】		【大崎】	得
0	山本	GK	中島	0
0	屋比久	GK	藤村	0
4	中川	FP	石井	1
5	植田	FP	佐々木	0
4	宮平	FP	大場	4
2	岩井	FP	内野	1
3	則武	FP	陽田	3
0	木下	FP	西	3
3	山村	FP	徳渕	1
0	平井	FP	江島	0
0	川村	FP	宮嶋	0
0	岡山	FP	根間	0
21	（0）	PT	（1）	13

（審・狩野、光島）

○…前半、大崎の攻撃は、フリースローライン前で足が止まり、横パスが多く、シュートチャンスを造ることができないばかりか、小さなミスが目立ち、出足のよいブラザーに拾われては、植田に速攻を仕掛けられ失点、17分8－3と、予想外に差がついた。余裕をもったブラザーは、後半開始直後宮平の活躍で加点5分16－5と開いて、大勢を決めた。

大崎は、攻防両面で覇気が感じられず、完敗も仕方なかった。

立石電機 12（1－4、7－4、……2－0、2－0）8 日立栃木

得	【立石】		【日立】	得
0	井村	GK	寺沢	0
0	丸山	GK	斉藤	0
2	姫野	FP	荒木	6
3	桑原	FP	山井	0
0	林	FP	島田	0
2	羽立	FP	吉田	0
0	橋ノ口	FP	大輪	0
3	薮田	FP	水上	2
1	紀野	FP	箕輪	0
0	福永	FP	山戸	0
1	平下	FP	毛塚	0
0	喜久山	FP	小根沢	0
12	（3）	PT	（4）	8

（審・佐野、徳前）

○…波の激しい女子の典型的な試合だった。

前半の立石は、紀野、橋ノ口、福永がベンチ（いずれも負傷）にいたこともあり、まったくの不調。9分PTで1点をあげただけ、どうにもならない印象をうけた。

ところが、後半1分1－5と開かれたあとから、桑原のパスプレーが冴えはじめ、姫野、薮田らが連続ゴール、すかさず、ディフェンスに紀野を送る策戦も活きて、12分5－5となった。

このあと、互いにPTを入れ合って6－6、残り5分に勝負がかかったが、立石は21分桑原、22分羽立で8－6、勝負を決めたとみえた。

しかし、今度は、日立にリズムが戻る。がぜん、動きに活気が出て、立石ディフェンスをゆさぶり23分PTで7－8、残り7秒、捨て身のプレスディフェンスから、ルーズボールを拾った荒木がなだれこみ、危うい所でタイ（8－8）とした。

こうなると、どちらが、先に波をつかむかがカギ。

立石は、それまで守りだけの紀野を送りつづけ、他の選手を刺激する〝精神療法〟。

これが、まんまと当たって1分羽立、2分紀野自身が決めてムードを盛りあげ、ディフェンスもよく動いて、日立につけいるスキを与えず、突き放した。

立石は、序盤でPTの失敗が続かなければ、もう少し楽に展開できただろうが、逆に日立は、その相手の不調を、徹底的について、主導権を絶対のものにしておくべきだった。後半、水上、島田がマークされ動けなかったのも痛い。

（杉山　茂）

ジャスコ 12（3－5、9－5）10 北国銀行

得	【ジャ】		【北国】	得
0	久保	GK	酒谷	0
0	矢部	GK	高橋	0
1	平田	FP	庄田	1
5	松下	FP	中山	0
0	林	FP	千歩	2
1	金田	FP	木戸	0
0	鈴木	FP	八木	4
3	河田	FP	山際	1
0	若田	FP	本田	2
2	横山	FP	西出	0
0	辻本	FP	坂	0
0	山本	FP	木内	0
12	（2）	PT	（1）	10

（審・山下、高橋）

○…前半、セットオフェンスによるサイド、正面の攻撃で、確実味のあった北国が15分3－1とリード、いちどは同点にされたものの、21分千歩、22分八木で再びリードした。

ジャスコは、鈴木ら主力の負傷から、攻守交互にメンバーをめまぐるしく替える作戦を採ったため、リズムに乗り切らず、特に、攻撃面は、単調にすぎた。

後半5分4－6から、ジャスコはPTで1点差とし、10分すぎ、ようやく、攻撃メンバーに落ち着きが出て、松下の崩しから、河田がミドルをとばして12分、初めて先手をとった。

北国も13分八木でタイ（7－7）と粘ったが、勢いのでてきたジャスコは15分金田、16分松下とたたみかけ、GK久保の立ち直りもあって、どうにかペースをつかんだ。

終盤、北国はいちど1点差に詰め寄ったが、ジャスコはすぐに2点を奪い逃げこんだ。

日本ビクター 21（11－3、10－3）6 大和銀行

得	【日ビ】		【大和】	得
0	鈴木	GK	丸山	0
0	塙	GK	中尾	0
3	加藤	FP	千原	1
7	穂積	FP	宮本	2
2	小島	FP	西田	2
0	斉藤	FP	増永	1
6	染谷	FP	内海	0
2	岩城	FP	富家	0
1	池田	FP	義川	0
0	寺村	FP	米山	0
0	高橋	FP	米盛	0
0	伊藤	FP	東木	0
21	（5）	PT	（1）	6

（審・大塚、佐分）

○…日本リーグ復帰（来季）を決めた大和の試合ぶりに注目が集ったが、ビクターは開始26秒PTで先制、そのあと5ゴールを奪って7分6－0、大和は、この先制パンチに、いきなりふらつかされてしまい、最後まで〝自分のプレー〟ができずに終った。

ブラザー、初の決勝進出
ビクターは立石に快勝

▽準決勝

ブラザー工業 15（7―6、8―4）10 ジャスコ

得	【ブ工】		【ジャ】	得
0	山本	GK	久保	0
0	屋比久	GK	矢部	0
2	岩井	PF	平田	0
3	中川	PF	松下	5
4	宮平	PF	林	0
0	則武	PF	河田	2
0	木下	PF	金田	2
2	植田	PF	若田	0
4	山村	PF	辻本	1
0	平井	PF	横山	0
0	岡山	PF	山本	0
0	川村	PF	鈴木	0
15	（4）	PT	（3）	10

（審・光島、狩野）

○…ジャスコは、ブラザーの速攻を防ぎ切れず、荒いディフェンスに出たがために、試合を失った。

後半3分7―9は、ジャスコにとって、まだまだ勝機の残るものだったが、同点を焦っての攻め急ぎから、かえって逆速攻をうけ、ディフェンスが押しこまれてしまい5分から10分までに3本のPT

ブラザーは、PTのスペシャリスト山村を送って2点、宮平で1点をとり12―8、さらに15分、中川の速攻がダメ押しの形となり、決勝初進出を決めた。

ジャスコの出足はよく、立ち上り松下の巧技で2―0、15分まで1点差ながら先行していたのだが19分宮平にゴールを許したあたりから、後手に廻ってしまった。

それだけなら、まだよかったのだが、相手が苦手中の苦手、その意識が出てしまい、ノーマークチャンスを落とすなどの、拙い攻めが多すぎた。

逆にブラザーは、いちどでも先行できればこっちのもの、といった余裕が感じられ、21分中川で7―6、後半開始直後、同点にされたものの2、3分中川が鮮やかな切りこみでリードを保つなど、みごとな試合ぶりだった。

クイーンの座・ブラザー工業

□…初々しい女王であった。待ちに待った優勝の感激というよりも、表彰式後、三十分近く経つというのに、まだ、なにかしら信じられないような顔つきの選手さえいる。

自分の力で、鮮やかに勝ちとった優勝メダル、互いにそれを見せ合う選手たちの表情には、なにか面映（おもは）ゆいような感じが浮かんでいた。

□…ブラザーにとって、それは長い道のりであった。

四十一年、伝統的な強豪地区・愛知の新星としてデビュー、全社あげてのバックアップをうけて、すぐにでも、全国最上位へ躍りあがるような勢いをみせた。

ところが、強い々々といわれながら、どうにも勝負運がない。

□…いちばん悩んだのは、四十三年から監督に就任した白神邦雄氏だ。桜台高(愛知)―芝浦工大と栄光のコースを歩み、〈優勝へのこつ〉を肌で、知っている。

秀れた手駒を与えられて当然、その指導も、自からがたどった過程の反復となったが、男子に通じても、女子に役立つとは限らないいや、同じハンドボールでも男子と女子とでは、「異ったスポーツ」といってもよいほどだ。

無欲でもぎとった "さわやか優勝"

□…「スポーツは勝たなければダメだ」「優勝の感激。スポーツに取り組んでいる以上、いちども味あわぬなんて…」――優勝々々といいつづけ、選手を叱咤していることに、自からが疑問を感じたのは、就任して七～八年目。

そして「やるだけやってみようじゃないか。それでダメなら、やりなおしだ」に変えた。

□…"優勝"にしばられなくなって、選手に精気が出た。50年の三重国体準優勝、53年のNBN杯大会優勝。

今度こそ、白神氏は、一つの手応えをつかんだが、昨年、日本リーグ前期を終えたところで、大黒柱・小森（モントリオール代表）の引退という痛手をうけた。

だが、チームスポーツというのは微妙だ。残った選手が、エースへの依存心から脱皮、かつてないまとまりをみせ、日本リーグ後期では、最終試合に優勝をかけるほどの粘り。そして、ついに、ビッグタイトルをもぎとった。

決勝戦の前、選手になにをいったのと白神氏にたずねたら、「やるだけやってみようじゃないか、だけですよ」と答えたあと、ポツリと「これは、いつも同じです」――。

（杉山）

日本ビクター 15（7―3、8―6）9 立石電機

得	【日ビ】		【立石】	得
0	鈴木	GK	井村	0
0	塙	GK	丸山	0
3	穂積	FP	姫野	2
3	小島	FP	橋ノ口	0
2	染谷	FP	藪田	4
1	斉藤	FP	羽立	1
5	加藤	FP	平下	1
0	池田	FP	桑原	1
0	伊藤	FP	紀野	0
0	岩城	FP	福永	0
0	寺村	FP	喜久山	0
0	村上	FP	林	0
15	（3）	PT	（3）	9

（審・山下、佐野）

○…準決勝らしい緊迫の序盤だった。

先手は4分薮田で立石がとったが、ビクターもPTで同点とし、15分までは、互いに点をとりあって進んだ。

こういう試合の決め手はディフェンスになる。

主力を負傷で欠く立石は、はるかに、その点で不安があったが、コートサイドの予想よりも早く、その穴があいた。

15分3―3から、穂積に軽く切りこまれ、21分には加藤に押しこ

まれた。どちらも、守りに、もう一つ動きがあれば…というプレーだった。

後半は、いっそう総合力の差が出た。5分10—4から、ビクターは染谷の連続ゴールで12—4、ここで勝負がはっきりした。

傷だらけの立石としては、やむを得ぬ敗戦だが、大器といわれる薮田のプレーに鋭さが加わり、新シーズンへの期待をいっそう高めたのは、収穫だった。

▽決勝

ブラザー、5—9から逆転

ブラザー工業 10（3—6 / 7—3）9 日本ビクター

	GK		FP									
【ビ】	鈴木	塙	加藤	小島	斉藤	池田	染谷	伊藤	岩城	村上	寺村	穂積
得	0	0	0	0	2	3	2	0	0	0	0	2
【ブ工】	山本	屋比久	中川	植田	岩井	則武	宮平	木下	平井	山村	岡山	川村
得	0	0	0	1	1	1	2	0	0	5	0	0

10（4）　PT　（4）9

（審・狩野、光島）

○…球史を飾るブラザーの大逆転劇だった。

後半5分9—5とビクターが点差を開いた時は、誰もが、その二連覇濃厚を感じたのだが、ブラザーは、このあと、驚くべきほどのスピードプレーで、ビクターディフェンスを一気に攻め落とし、連続4ゴールで15分同点(9—9)、21分のPTを山村が決めて10—9そのまま、タイムアップのホイッスルを聞いたのである。

○…前半12分3—3の展開は、いかにも決勝らしく重苦しい雰囲気だったが、ベテラン揃いのビクターは12分斉藤で均こうを破り、ディフェンスを固めて、この1点をだいじに守った。

それは、ブラザーの焦りを誘うという効果を狙ってのものだ。

案の定、ブラザーは、全員の動きにバラつきが見えはじめ、パスがつながらなくなった。二つつながっても、三つ目のフォローがない。そればかりか、守りに廻っても焦りをのぞかせ、18分以降、再三再四のPT、ビクターはこのうち三本を決めて、思惑どおり6—3とリードを奪えた。

○…ハーフタイム。両軍監督はどちらも、前半の不出来を注意したが、劣勢のブラザー・白神監督のほうが、むしろ気楽な表情だったのは面白い。

ビクターは、一応、ゲームを自軍ペースで展開させていたものの PT失敗などあって、必ずしも満足ゆくわけではなかった。それがかえって、3点リードにも拘わらず、ベンチの表情をこわばらせたのだ。

後半開始直後、ともにPTで1点づつ。ビクターは14分目の得点だった。このあと、ブラザーは2点、ブラザーは1点をあげ、ビクターは2点、5分9—5とビクターの有利は動かせないものとみえた。

○…しかし、勝負というものは本当に判らない。それまで、詰めもフォローも申し分なかったビクターディフェンスの動きが、急に鈍りはじめ、ブラザーは6分則武が相手GKのタイミングをはずす個人技、7分には中川—山村のポストプレー、11分には植田の速攻と連続3ゴール、さらに14分のPTを宮平が決めて9—9。あっという間のできごとだった。

この反発には、さしものビクターも慌てた。攻撃のリズムまでも狂い、結果的には、タイムアップまで1点も入らぬことになる。

○…「後半は走りまわれ」というブラザーの、どちらかといえば〝無欲〟の生んだ大逆転だが、ビクターにしてみれば、前半は、自からの老巧さで、相手を焦りに誘いこみ、後半は、逆に、自チームが焦らされるという、まさに悪夢のような試合。池田、加藤までもが、絶好の得点機を逃してしまっては、ブラザーの勢いを、とても食い止められるものではなかった。

（杉山）

ブラザー工業・白神邦雄監督の話。 信じられないような勝利です。

後半、ウチの走りがよく出たのが勝因といえますが、小森が退部したあと、全員がともかく力を合わせてやろうと、小さいながらもまとまったのが、大きいと思います。毎シーズン、強い々々といわれながらタイトルを取れなかっただけに僕個人はホッとした気持ちです。

〃〃〃〃〃佐野審判員が引退〃〃〃〃〃

昭和30年から25年にわたって第一線レフェリーとして活躍していた国際公認審判員、佐野和夫氏（東京教大出）が、今大会第4日の1月20日、女子準決勝・日本ビクター×立石電機戦を最後の担当試合に〝引退〟した。

ヨーロッパでは、ベテランレフェリーの「引退試合」は珍しくないが、日本では、自然に第一線を去るかたが多く、この日の佐野氏のようなケースは、46年、全日本実業団選手権（横浜）での、嶋田新太郎氏についで二人目。

佐野氏には、主管の東京協会などから、記念品が贈られた。

お詫び　機関誌「ハンドボール」の刊行が遅れ、読者、広告提供各社に、ごめいわくをかけていることを、お詫びいたします。

（編集委員会）

日本ビクターのベテラン・池田はこの大会でも相変らずの巧技をみせた　（スポーツイベント提供）

東ドイツ、2連勝の偉業成る

～世界女子選手権Aグループ（チェコ）～

得失点差に泣いた五輪の女王・ソ連

第7回世界女子選手権（Aグループ）は，昨年11月30日から12月10日まで、チェコのプラチスラバなど5都市に、12カ国が参加して行なわれ、東ドイツが、史上初の2連覇の偉業をみごとに成し遂げた。

大会は、12カ国を4カ国づつ3組の予選リーグに分け、各組2カ国づつのベストシックスによる決勝リーグで女王の座を争った。

六強に勝ちあがったのは、予想どおり、すべて東欧勢。予選リーグ3日目、オリンピック優勝のソ連が、チェコに敗れたことから東ドイツ優位となった。

しかし、決勝リーグで、ソ連が東ドイツを降したため、かつてない激戦となり、最終日まで、まったく予断を許さなかったが、結局東ドイツ、ソ連が4勝1敗で並び、得失点差から、東ドイツがソ連を4点上廻るという際どい勝負で、栄冠を守った。

東ドイツの優勝は、71年、75年についで3度目。

アジア大陸代表として初参加した韓国は、強豪にはさまれ、苦しい展開となり3敗、予選リーグで姿を消したが、スピードある攻守と、フェアなマナーがヨーロッパファンの目をとらえた。（杉山　茂）

韓国、力及ばず3敗

予選リーグ

◇A組

ユーゴ 28（14－11、14－10）21 韓国

得	【ユーゴ】		【韓国】	得
0	テイトリッチ	GK	丁順福	0
0	ラドビッチ	GK	姜奉淑	0
2	パピヤビッチ	FP	崔銀栄	0
6	スタノジェビッチ	FP	李相玉	5
5	イレース	FP	李明淑	4
1	オグニエノビッチ	FP	任昌淑	3
5	スラジッチ	FP	金順淑	5
0	ベリコビッチ	FP	金明恵	0
7	キテイッチ	FP	張泉娩	0
1	ミヤク	FP	李京姫	4
1	ボジノビッチ	FP	金善姫	0
0	ギジッチ	FP	柳京美	0
28	（2）	PT	（8）	21

東ドイツ 13（6－3、7－6）9 ルーマニア

ユーゴ 16（8－7、8－7）14 ルーマニア

東ドイツ 29（17－6、12－6）12 韓国

得	【東ドイツ】		【韓国】	得
0	クェーネルト	GK	丁順福	0
0	ツオーバ	GK	姜奉淑	0
2	ハイニッケ	FP	李相玉	8
0	クレチュマル	FP	金順淑	1
10	リヒター	FP	金明恵	0
7	マッツ	FP	任昌淑	0
0	ロスト	FP	李京姫	0
0	クラウゼ	FP	金善姫	1
2	ヴンダーリッヒ	FP	柳京美	0
3	ロエータ	FP	李明淑	2
1	ウーリッヒ	FP	崔銀栄	0
4	クルーガー	FP		
29	（4）	PT	（5）	12

ルーマニア 20（9－6、11－6）12 韓国

得	【ルーマニア】		【韓国】	得
0	スタン	GK	丁順福	0
0	コパクス	GK	姜奉淑	0
0	サンド・アルギール	FP	李相玉	2
0	マライ	FP	金明恵	3
0	アバダネイ	FP	張泉娩	0
2	ヤコブ	FP	金善姫	2
4	サス	FP	任昌淑	3
4	ミクロス	FP	柳京美	0
2	ガアール	FP	崔銀栄	0
6	ボシ	FP	李明淑	1
1	トロッチ	FP	金順淑	1
1	ペレス	FP		
20	（4）	PT	（2）	12

東ドイツ 15（8－7、7－7）14 ユーゴ

【順位】①東ドイツ3戦全勝②ユーゴ2勝1敗～以上決勝リーグへ～③ルーマニア1勝2敗④韓国3敗

○…2連勝を目指す東ドイツが順当に白星を重ねたが、ユーゴ戦は、薄氷を踏む勝利だった。

若手を揃えたユーゴは、第一戦・韓国を相手に、あまり歯切れのよい試合ぶりではなかったが、東ドイツ戦にすべてをかけたような戦いぶりで、二千のファンをわかせた。

特に、180cmのスラジッチが、当たりに当たり、東ドイツディフェンスの上から豪快に射ちこんで、一歩も引かず、東ドイツは、焦りの色を濃くしていた。

しかし、さすがに、ベテランを揃えた東ドイツは、残り1分14－14でマイボールとなるや、じっくりと時間をかけた巧みな攻めを見せ、たとえ、相手ボールとなっても、失点にはつながらぬとみた残り25秒から、速いローリングでユーゴ守備陣を崩し、エース・リヒターが、ユーゴGKラドビッチをフェイントでかわして決勝点、辛くも逃げこんだ。

注目の韓国は、世界選手権が、本場・ヨーロッパへのデビューという大たんなものだったが、各試合とも、持てる力を発揮した。

特に、第1戦は、ユーゴが、韓国の動きを待って出たため、いい型になり、点差を詰めた。しかし、日本が味ったと同じように、

大柄なヨーロッパ勢に押しこまれると、ほとんどなす術がなく、あるいはと思わせたルーマニア戦も相手の強引な攻めを捌ききれなかった。

チェコ、ソ連破る大波乱

◇B組

チェコ 31（12－4、19－1）5 アルジェリア

ソ連 28（14－11、14－10）21 オランダ

チェコ 20（8－9、12－4）13 オランダ

ソ連 23（10－4、13－1）5 アルジェリア

オランダ 26（13－4、13－0）4 アルジェリア

チェコ 11（6－5、5－5）10 ソ連

得	【チェコ】		【ソ連】	得
0	コンセコーワ	GK	ティモスチキーナ	0
0	ダティンスカ	GK	コロチローワ	0
0	ボレドビコーワ	FP	カルローワ	3
0	ナバコーバ	FP	オディノコーワ	1
0	ザトコーバ	FP	ツルスチーナ	1
0	ラムリチーバ	FP	コシエルジーナ	2
0	ハラロワ	FP	ドブニナ	0
0	パブラソーバ	FP	ボブルス	0
0	ラバヨーバ	FP	グルスチエンコ	0
1	クトコバ	FP	ネネナーヌ	0
7	フォルチノーバ	FP	スバレーワ	3
3	コリタローワ	FP	パルスチコーワ	0
11	（3）	PT	（2）	10

【順位】①チェコ3戦全勝②ソ連2勝1敗～以上決勝リーグへ～③オランダ1勝2敗④アルジェリア3敗

○……地元チェコが、オリンピックの女王・ソ連をやっつけ、大会は、いちだんと盛りあがった。

試合は、終始息ずまるような展開で、互いのディフェンスが、一分（いちぶ）のスキも見せず、相手の攻撃を封じあって、場分を埋めた千五百人のファンは、重苦しいムードに包まれた。

チェコは、当然のように、切り札、184cm・85kgのフォルチノーバにボールを集め、彼女の〝破壊力〟に頼った。ベンチ、スタンドの期待を荷った彼女は、ソ連のマークを振りちぎるようにしてシュートを放ち、ゴールを決めたが、ソ連攻撃陣も、コシエルジーナ（旧姓マカレス）の巧技や、20才の新鋭、183cmのスバレーワのパワーで対抗した。

勝負の岐れ目は、ソ連ディフェンスが、フォルチノーバを、いかに封じるかにかかったが、その気負いが、荒い守りとなり、特に24分9－10からPTを課せられたのが痛かった。

このチャンスに、フォルチノーバは、冷静にPTを決め11－9としたが、その前、後半6分6－6からの場面でのPTも活かしており、この二本のゴールが、チェコの勝因につながった。

ソ連は、残り45秒、カルローワのゴールで10－11としたものの、及ばなかった。

両国の決勝リーグ進出は順当といえたが、目立たぬながら、オランダの健闘も、賞していい。

エースのコクは167cmと、さして大型ではないが、フットワーク、シュートに切れ味がある。

アルジェリアは、三試合とも一桁得点、それも5点以下におさえられ、実力未だしだった。

なお、ソ連は、アルジェリア戦で、16才のGKスバル（178cm）をデビューさせた。

西独、ポーランドに善戦

◇C組

ポーランド 28（14－12、14－4）16 カナダ

ハンガリー 23（13－10、10－5）15 西ドイツ

ポーランド 16（11－7、5－8）15 西ドイツ

ハンガリー 26（11－4、15－6）10 カナダ

西ドイツ 20（10－4、10－2）6 カナダ

ハンガリー 21（9－5、12－9）14 ポーランド

【順位】①ハンガリー3戦全勝②ポーランド2勝1敗～以上決勝リーグへ～③西ドイツ1勝2敗④カナダ3敗

○……まったく波乱のないグループだった。

モントリオール銅メダルのハンガリーは、名GKブイドソをはじめベテランが引退し、戦力ダウンが心配されたが、バダス（166cm）を主軸に、無難に勝ちあがった。

〝西側〟で、唯一つベストシックスに食いこめるのではないかとみられた西ドイツは、カギを握るポーランド戦に惜敗した。

西ドイツの立ちあがりはよく、17分8－2とリードを奪う好調さだったが、そのあと約10分間ノーゴールの拙攻で、ポーランドを立ち直らせてしまった。

リードを許しても、あわてることなく守りを固めたポーランドの地力も、たいしたものだ。

後半5分、ポーランドは7－8と、逆転の足場を固め、19才のクレフト（174cm）の活躍もあって勢いづき、15分12－11と初めて先行した。

西ドイツも、このあたりから再び攻撃にテンポが戻ったものの、大量差をくつがえされたあとだけに、もう一つ盛りあがるものがなかった。

モントリオール以後、競技人口が増えているカナダは、守りの力が弱すぎ、完敗をつづけた。

B組に出たアルジェリアの戦力と合わせて、モスクワオリンピックを狙う日本にとって、アジア予選で代表権さえ握れば、「三大陸代表」（一九八〇年春、アフリカで予選会）の座を手にすることはまず、間違いなさそうだ。

〟〟〟〟〟〟〟池田監督らが視察〟〟〟〟〟〟〟

□…全日本女子監督に新任した池田鉄哉氏と、同コーチ白神邦雄氏が、予選リーグA組を視察した。

狙いは、もちろんライバルの韓国。豪雪で空港閉鎖となり到着が遅れ、第一戦は見られなかったが東ドイツ戦では、〝韓国封じ〟のヒントをつかんだようで、緊張の表情のなかにも、自信をうかがわせた。

ヨーロッパ勢については「若返りと大型化」が目立ったそうだ。

これまでの上位順位

	1位	2位	3位	4位
第1回（1957）	チェコ	ルーマニア	ドイツ	ポーランド
第2回（1962）	ルーマニア	デンマーク	チェコ	ユーゴ
第3回（1965）	ハンガリー	ユーゴ	西ドイツ	チェコ
第4回（1971）	東ドイツ	ユーゴ	ハンガリー	ルーマニア
第5回（1973）	ユーゴ	ルーマニア	ソ連	ハンガリー
第6回（1975）	東ドイツ	ソ連	ハンガリー	ルーマニア
オリンピック（1976）	ソ連	東ドイツ	ハンガリー	ルーマニア
第7回（1978）	次頁参照			

ソ連、東ドイツを降す

決勝リーグ

▽第1日（12月5日）

東ドイツ（2勝）25（14—6、11—4）10 ポーランド（2敗）

ユーゴ（1分1敗）13（6—5、7—8）引き分け 13 チェコ（1勝1分）

	【チェコ】	得	【ユーゴ】	得
GK	コンセコーワ	0	ラドビッチ	0
GK	ダティンスカ	0	シロセビッチ	0
FP	ボレドビコーワ	0	パビヤビッチ	2
FP	ナバコーバ	1	スタノジェビッチ	2
FP	フォルチノーバ	7	イレース	2
FP	コリタローワ	1	オグニエノビッチ	1
FP	カドナローワ	0	スラヂッチ	4
FP	ホラロワ	0	キティッチ	1
FP	パブラソーバ	1	ボジノビッチ	1
FP	ラバヨーバ	0	ギジッチ	0
FP	クトコバ	1	ミヤク	0
FP	ザトコーバ	2	ベリコビッチ	0
PT	（3）	13	（2）	13

ソ連（1勝1敗）19（10—8、9—5）13 ハンガリー（1勝1敗）

○…ソ連を破り意気あがるチェコが、痛い引き分けを演じた。

前半、巧く先手をとり、いけると思わせたのだが、ユーゴは、後半ディフェンスが、見違えるようによくなり、チェコは、追加点をなかなか、あげられなくなってしまった。

終盤は、互いに、シュートの失敗があって、主導権を握れず、時間切れとなった。

もつれるかとみえたソ連×ハンガリー戦は、ハンガリーが前半、帰陣の遅れをつかれて失点を重ね、そのままのペースで、押し切られた。

チェコ、手痛い一敗

▽第2日（12月6日）

ユーゴ 18（10—10、8—4）14 ポーランド

ハンガリー 14（5—8、9—5）13 チェコ

ソ連 14（4—7、10—5）12 東ドイツ

	【東ドイツ】	得	【ソ連】	得
GK	ブロッシュ	0	ティモスチキーナ	0
GK	ツォーバ	0	コロチローワ	0
FP	クルーガー	2	カルローワ	1
FP	マッツ	0	オディノコーワ	4
FP	クラウゼ	0	ツルスチーナ	1
FP	ロスト	0	コシェルヂーナ	6
FP	ウーリッヒ	0	ドブニナ	0
FP	ヴンダーリッヒ	0	グルスチエンコ	0
FP	ロエータ	1	ネネナーヌ	0
FP	ティーツ	2	ボブルス	0
FP	リヒター	6	スバレーワ	2
FP	クレチュマル	1	パルスチコーワ	0
PT	（2）	12	（2）	14

○…ソ連が予選2位のため"事実上の決勝戦"が、早くも行われた。

一差を追うソ連としては、どうしても負けられぬ試合。その気力は、すさまじいばかりで、コシェルヂーナ、オディノコーワのコンビによる速攻と、GKテイモスチキーナの、神がかった美技の連続で、前半10—5と、思わぬ大差がついた。

東ドイツは、手の内をすっかり読みとられてしまったようで、このチームには、めずらしく攻めあぐむ場面さえあった。

しかし、後半になると、リヒターに冴えが戻り、じわじわと点差を詰めたのだが、前半で余祐をもったソ連はあわてず、32才の大ベテラン・ツルスチーナの好リードもあって、粘る東ドイツを突き放した。

台風の目・チェコが、大きな星を落した。前日の引き分けの痛手が尾を引いたのか、立ちあがりから精彩がなく、ハンガリーのステルビンスキーを中心とするセット攻撃にゴールを割られ、後半の追いこみも空しく、優勝戦線から一歩退き、三千のファンを落たんさせた。

これで、東ドイツ、ソ連、ハンガリーが勝ち点4で並び、チェコ、ユーゴが1点差で追うという、かつてない乱戦模様。すべては、残る二日間にかかることとなった

ハンガリー押し切られる

▽第3日（12月8日）

東ドイツ 14（7—3、7—2）5 ハンガリー

	【ハンガリー】	得	【東ドイツ】	得
GK	ベルスゼニイ	0	ツォーバ	0
GK	オーリ	0	ブロッシュ	0
FP	レルケス	1	リヒター	4
FP	クシュリク	3	クレチュマル	4
FP	ナジ	0	マッツ	2
FP	サムス	0	ロスト	0
FP	バダス	0	ウーリッヒ	1
FP	イハース	1	ヴンダーリッヒ	0
FP	アンギヤル	0	ロエータ	0
FP	バラス	0	ティーツ	2
FP	スジバドヒ	0	クルーガー	0
FP	コクシス	0	ハイニッケ	1
PT	（0）	5	（4）	14

チェコ 22（12—3、10—4）7 ポーランド

決勝リーグ勝敗表

	東	ソ	ハ	チ	ユ	ポ	P	得	失	差
①東ドイツ	…	●	○	○	(○)	○	8	82	55	27
②ソ連	○	…	○	(●)	○	○	8	75	52	23
③ハンガリー	●	●	…	○	○	(○)	6	67	72	-5
④チェコ	●	(○)	●	…	△	○	5	71	60	11
⑤ユーゴ	(●)	●	●	△	…	○	3	68	71	-3
⑥ポーランド	●	●	(●)	●	●	…	0	50	103	-53

※（　）内は予選リーグでの勝敗

⑦ルーマニア
⑧西ドイツ
⑨オランダ

ソ連 15（10－5、5－6）11 ユーゴ

○…優勝の行方をかけた東ドイツ×ハンガリー戦は、ハンガリーが、ゲームメーカー、ステルビンスキーを負傷で欠いたため、まったくチャンスをつかむことができず、東ドイツの多彩な攻めに押しまくられ、期待を裏切る凡戦に終った。

チェコ×ポーランドも、ポーランドが巻き返しに出るかと思えたが、チェコに一蹴されてしまい、この時点で、モスクワ行きの夢を捨てることになった。

ソ連－ユーゴも、後半、ユーゴの追撃で、どうにか一方的にならずに終ったが、ソ連が、前日につづいて先制攻撃で主導権をいち早く握るという、波乱の少ない経過で、盛りあがりに乏しかった。

すさまじかったソ連の攻撃

▽第4日（12月10日）

得	【ソ連】		【ポーランド】	得
0	テイモスチキーナ	GK	ザレウスカ	0
0	コロチローワ	GK	ゴレツカ	0
3	カルローワ	FP	トラファルスカ	1
3	オディノコーワ	FP	ロウクシニスカ	0
4	ツルスチーナ	FP	ルサゼウスカ	0
3	コシエルギーナ	FP	ズラウスカ	1
0	ドブニナ	FP	ギャルス	2
1	ボブルス	FP	ヤーネッカ	1
0	マジエカイテ	FP	クレフト	0
0	パルスチコーワ	FP	シオドラク	0
2	スバレーワ	FP	ブレウイク	0
1	ネネナーヌ	FP	ラク	0
17	（2）	PT	（5）	5

ハンガリー 14（8－7、6－5）12 ユーゴ
東ドイツ 16（8－5、8－7）12 チェコ
ソ連 17（7－1、10－4）5 ポーランド

○…あと一試合を残して東ドイツは勝ち点6、得失点差23、ソ連は勝ち点6、得失点差11。

最終戦の相手を考えれば、互いに勝ち点で並ぶことは、まず間違いなく、勝負は、得失点差にかかる微妙なものとなった。

これまでのルールだと、同勝ち点の場合は、当該対戦カードの勝負によって順位が決められたが、モントリオール以降、すべての得失点差に変わっている。

つまり、旧ルールならソ連が有利だったのだが、現行ルールだと東ドイツ優位という戦況で、最終日の幕があいた。

第1試合（午前中）の観客は、わずか六百名、午後の部のスタンドはさすがに人で埋まり、二千五百人収容をはるかに上廻るファンがつめかけた。

まず、東ドイツが、三位の望みを残すチェコと対戦。

東ドイツは、チェコの攻撃源フオルチノーバを徹底的にマーク、チェコも、当然、この策を承知で将来を期待されるコリタローワのシャープな切りこみに、活路を求めた。

この攻撃は、一応成功したが、やはり、攻め口の豊富さは東ドイツが一枚も二枚も上。クレチュマルが、特に、この大会最高の出来とも思われるプレーでポイントをあげ、GKツオーバの堅守もあって完勝、得失点差を27にふくらせて、ソ連の試合を見守ることになった。

○…ソ連の〝ノルマ〟は、16点差の勝利。いかに、ポーランドが戦意をそう失しているとはいえ、難しい注文であったが、ソ連攻撃陣は、マイボールになるや、一気に攻めこんで、タイトルへの執念が、なみなみならぬものであることを示した。

しかし、ディフェンスでは、前半1失点という、信じられぬようなデキをみせたが、肝心の攻めで気負いすぎ、前半を終って、得失点差は17、あと10点のプラスが必要という、苦しい数字になった。

結果的にみると後半は10－4、東ドイツに4点及ばなかったわけだが、前半、もう少し落ち着いていれば、あるいはということも考えられぬわけではなかった。

激戦の大会の最後を飾るには、一方のチームの得点計算が焦点という味気ないものになってしまったが、ソ連のすさまじいばかりの追撃は、オリンピックの女王というにふさわしいものがあった。

7～9位決定リーグ

ルーマニア 10（6－3、4－4）7 西ドイツ
西ドイツ 20（13－8、7－9）17 オランダ
ルーマニア 25（14－8、11－11）19 オランダ

【順位】⑦ルーマニア⑧西ドイツ⑨オランダ

モスクワへ5カ国決まる

第7回世界女子選手権の終了でモスクワ・オリンピックに出場する女子6カ国のうち5カ国が決まった。

今大会優勝の東ドイツ、同3位のハンガリー、同4位のチェコ、同5位のユーゴ、それに開催国ソ連である。

残る1カ国は「三大陸（アジア・アフリカ・アメリカ）代表」でオリンピックイヤーの一九八〇年三月、アフリカ代表となった国で予選会が行われるが、それまでにアフリカは今年6月、アジアは今秋11月、アメリカは来年1月それぞれの大陸予選を行う予定。

リヒターらベストセブンに

□…大会当局は、今大会のオールスターチーム（ベストセブン）を次のように決め、発表した。

▽GK　テイモスチキーナ(ソ連)

▽FP　リヒター、ティーツ（ともに東ドイツ）、コシエルヂーナ、ツルスチーナ（ともにソ連）、バダス（ハンガリー）、クトコーバ（チェコ）

「ミス」にコリタローワ

□…大会を取材した200人をこすジャーナリストの投票による「ミス・ハンドボール」コンテストは　チェコのルビカ・コリタローワ（24才、学生、177cm）が65票でトップになった。２位は、前哨戦の各大会で、ミスの栄冠を一人占めしていたユーゴの新星スベトラナ・キテイッチ（18才、学生、172cm）で、62票だった。

	個人得点15傑		
①	フォルチノーバ	（チェコ）	41
②	リヒター	（東ドイツ）	40
③	スラヂッチ	（ユーゴ）	36
④	コク	（オランダ）	32
④	コシエルヂーナ	（ソ連）	32
⑥	クシュリク	（ハンガリー）	29
⑦	バーント	（西ドイツ）	23
⑧	コリタローワ	（チェコ）	22
⑧	クレフト	（ポーランド）	22
⑧	キテイッチ	（ユーゴ）	22
⑧	スバレーワ	（ソ連）	22
⑫	ステルビンスキー	（ハンガリー）	21
⑫	マッツ	（東ドイツ）	21
⑭	ナジ	（ハンガリー）	19
⑭	クレチュマル	（東ドイツ）	19
⑭	ズラウスカ	（ポーランド）	19

得点一位はフォルチノーバ

□…５試合以上の選手による本誌調べの個人得点ベスト15は別表のとおり。

フォルチノーバの184cmをはじめほとんどの選手が170cm台。160cm台は169cmのリヒター、167cmのコク、168cmのクレチュマルだけ。

また、キテイッチ18才、クレフト19才、スバレーワ20才など、若手のアタッカーが、10位内に食いこみ、成長が楽しみ。

李相玉ら健在の韓国

□…注目の韓国代表は、ほとんど昨年６月のアジア予選の時と同じメンバー。

エース・李相玉（造幣公社）が元気いっぱいで、15ゴールを叩き出したほか、任呂淑、金順淑らの活躍が目立った。また、アジア予選に出るのでは、といわれた李京姫もカムバックしたようだ。

新人では、昨夏の日韓高校交流で来日した柳京美と崔銀栄が、早くも、名を連ねている。

オリンピック出場5カ国メンバー

別掲のとおり、今大会の順位によって、上位５カ国までに、来年のモスクワ・オリンピック出場権が与えられたが、本誌調べによるオリンピック出場決定国の今大会出場メンバーと身長は、次のとおり。

なお、１面所報のとおり、東ドイツの来日が確定したが、遠征メンバーは、世界選手権時とほぼ同じと伝えられている。（数字はcm）

〔東ドイツ〕GKツオーバ173、ブロッシュ175、ノスナゲル182・FPクルーガー183、マッツ176、クラウゼ175、ロスト171、ウーリッヒ166ヴンダーリッヒ171、ロエータ188（今大会最長身）、エルベ172、ティーツ168、リヒター169、クレチュマル168、ランゲンベルグ172、ハイニッケ170

〔ソ連〕GKテイモスチキーナ176コロチローワ176、スバル178・FPカルローワ176、オディノコーワ162、ツルスチーナ178、コシェルヂーナ176、ドブニナ181、グルスチェンコ165、ネネナーヌ172、ボブルス165、スバレーワ183、パルスチコーワ165、マジェケイト184、ヤトルスチェーワ175、ミロスクニク172。

〔ハンガリー〕GKベルスゼニイ170、オーリエ169、エリアス170・FPクシュリク170、レルケス175、ナジ178、M・ナジ170、サムス168、バダス166、イハース164、アンギャル165、バラス170、スジバドヒ167、コクシス176、クシャイボク170、ステルビンスキー172、クラマー165、スバルガ178。

〔チェコ〕GKダティンスカ175、コンセコーワ175、ラムリコーワ166FPコミンコーワ176、ベノーバ173クトコバ170、ナバコーバ171、ボハチコーバ168、ボレドビコーワ165、パブラソーバ161、ザトコーバ161、セマノーバ165、フォルチノーバ184ホラロワ165、コリタローワ165、ラバヨーバ178、ボコローバ165、クプチコーバ168、カドナローバ168、コザニョーバ178。

〔ユーゴ〕GKラドビッチ179、シロセビッチ(不明)、ティトリッチ172、FPパピヤピビッチ182、ギジッチ180、スタノジェビッチ174、イレース176、オグニエノビッチ174、スラヂッチ180、ベリコビッチ181、キテイッチ172、ルーター172、ミヤク173、ブカイロビッチ176、ガロ174、マラス174、ミロセビッチ183。

次回はハンガリー

一九八二年に予定される第８回大会（Aグループ）の開催地は、ハンガリーが有力視されている。

給与の
お引き出しに…

出張に…

ショッピングに…

銀行が
閉まった後で…
（ダイワの外壁や ☑ コーナー）

旅行に…

ふいの出費に…

日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45〜午後6:00(土曜日は午前9:00〜午後2:00)まで、また☑マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや☑マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

☑マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

ダイワキャッシュカードは総合口座(普通預金)をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

いきなりビクター×ブラザー

全日本実業団選手権　男子は大同に四冠の野望

第19回全日本実業団選手権が、女子は1月26日から29日まで京都府立体育館で、男子は2月13日から15日まで大阪市立中央体育館で開かれる。

また、第10回全国男子実業団トーナメントが2月11日から13日まで、大阪市中央体育館を主会場に行われる。

今シーズン最後のビッグイベントを、組み合せをみながら展望してみよう。

期待かかる日立の進出

女　子　全日本総合選手権（1月17～21日、本誌2～9頁詳報）が、終って1週たたぬうちでの激突。

しかも、前年度の順位を基にしての組み合せのため、いきなり全日本総合の決勝・ブラザー工業（愛知）×日本ビクター（茨城）となってしまった。

実連関係者も、まさかと思っていただろうが、それにもまして、複雑な表情なのは、両チームだ。

全日本総合を終って、東京体育館を去る時、ブラザーセブンは「実業団でも頑張れよ」と声をかけられたし、ビクターは「京都で雪じょくを頼む」と励まされた。

こういうケースは、めったにあるものではない。

〝再戦〟を喜んでいるのは、ビクター・池田監督のほうだ。

もし、期間があいてしまえば、ブラザーに余裕ができ、それが、今後の苦手意識につながってしまう。ここで、借りを返しておけばタイトルの重みこそ違え、選手の気分は、かなり楽になる。

一方、ブラザーは、明きらかに「やりにくい」（白神監督）。

この大会で敗れるようなことがあれば、全日本での優勝はフロックと云われかねない。

「優勝チームらしい試合になれば、例え敗れても…」と、いささか声が小さい。

精神的には、ビクター有利とみたい。

ビクター×ジャスコ（三重）の勝者が、そしてタイトルをさらうことになろう。

ジャスコは、全日本総合で、エース松下のコンディションが悪く鈴木も負傷とあって、不安定な試合ぶりだったが、底力（そこぢから）みたいなものは、このチームが、いちばんあるような気がする

ビクターは松下を、ジャスコは加藤をマークし合うだろうから、カギはビクター・穂積、ジャスコ・河田のデキにかかる。

全日本総合での戦かいぶりからすれば、ビクター僅かに有利か。

一方のブロックは、日立栃木（栃木）進出とみたい。

準本拠地の立石電機（熊本）も、井監督のベンチワークで、かなりまとまってきているが、やはり、紀野以下主力選手が完調ではなくそこへ行くと、日立は、今シーズン、あまりパットしていないだけに、このチャンスに、すべてをかけて来そうな気がする。

山井、島田、吉田らの攻撃力は鋭いものがあり、一つリズムをつかめば、初優勝さえ期待できる。

ダークホースは北国銀行（石川）だ。

日本リーグの連戦で、社会人の試合ぶりをのみこみ、小松市女高時代の地力が、活きてきている。

全日本総合で、ジャスコに食い下ったあたりは、みごとなものがあり、準決勝までは、固く勝ちあがってこよう。

北国をつまづかすとすれば、大崎電気（埼玉）だが、いちど、主導権を失うと、ずるずると退いてしまう弱点がある。苦しかろう。

こう書き進んでくると新クイーン・ブラザー工業に、まったく勝算がないように思えるが、ビクター戦を突破すれば、一週間のうちに二大タイトル獲得という〝快挙〟を、やってのけることも充分考えられる。

ビクター×日立か、ブラザー×日立か、それとも、ブラザーに北国が挑戦？いかにも〝戦国時代〟のフイナーレを飾るにふさわしい波乱ぶくみの大会になりそうである。

割りこんで欲しい本田技

男子選手権　日本リーグ加盟のチームに、トーナメントの勝者が加わるシステム

焦点は、大同特殊鋼（愛知）の四冠独占成るかだ。

すでに、大同は48年度に、この偉業を遂げており、今回、再びそれを果たせば、女子大洋デパート（熊本、廃部）につぐ記録になる。

1回戦の三景、準決勝の日新戦よほどのことがない限り、敗れるとは考えられない。

問題は、決勝の相手が、湧永薬品（広島）になるのか、本田技研鈴鹿（三重）になるのかだ。

このことは、本誌前号、全日本総合選手権展望と全く同じになるわけだが、本田が湧永を食えば、がぜん面白くなってくる。

全日本総合では、ヨーロッパなみ(?)のラフゲームの末、湧永が終盤、勝利を握ったが、実力に差のないことが、ますますはっきりしている。

湧永は、全日本決勝での負けかたがよくないだけに、一カ月たらずの間に、立ち直っているかがカギといえる。

もっとも、本田にしても、その試合ぶりは、かなり波があるから湧永を、そう簡単に切り崩せるとは思えない。

ただ、スタンド雀からすれば、いつもいつも大同×湧永であっては、新鮮味に欠けることこの上ない。

この流れをかえる期待は、今のところ本田にしか、かけられぬのである。

本田が、湧永、大同を蹴り落して、宿願の全国タイトルを手にしようものなら、オリンピック前年これほどよい、景気ずけはあるまい。

このほかの5チームは、正直のところ水があく。

わずかに、日新製鋼(広島)が、どこまで、大同との左を詰めておくかだ。

ここでの試合内容が、6月開幕の日本リーグに、充分つながってくる。

その日新を、1回戦で三陽商会(東京)が、追いこむようだと面白い。

大崎電気(埼玉)、三景(東京)には、名門の意地を見せてもらいたいのだが――。

力のある東京重機

追う丸善、トヨタ、神鋼

男子トーナメント

32チームの参加。4~5年前までは、この32を、さなに16・16に分けてもよいほど実力差があったが、急激に、その差がなくなってきた。

これは、このレベルの実業団チームが、この大会を、年間の最大最高のターゲットに据えているからだ。

優勝争いは、当然、そうした意気ごみのチームが中心になってくる。

前回の勝者・東京重機工業(東京)は、全日本総合で、日本リーグ4位の日新製鋼に23―26と食い下っており、抜群の存在。

1回戦の新日鉄大分(大分)戦さえ切り抜ければ、あとは日鉄建材(大阪)、武田薬品光(山口)、金沢市役所(石川)、自衛隊勝田(茨城)と、どこと当たっても、勝ち進めそうだ。

それに引きかえ、反対のブロックは実力伯仲。

過去の実績からするとトヨタ車体(愛知)、丸善石油下津(和歌山)が有力だが、神戸製鋼(兵庫)、新日鉄名古屋(愛知)、住友化学愛媛(愛媛)らも侮れず、大激戦になりそう。

順当にいけば、準決勝は重機×武田薬品光、トヨタ車体または神戸製鋼×丸善石油下津で、重機×丸善の決勝とみていい。

ところで、今年の大会は、別の興味が一つある。

取り沙汰される日本リーグ二部「アダルト・リーグ」への加盟チームが、果して、このトーナメントから名乗りをあげるかどうかだ

この大会で、ある程度の実績をあげれば、会社側への説得力を得ることにもなり、注目される。

ハンドボールの日本リーグは「実業団リーグ」ではないという特色があるだけに、この大会だけをとやかくするのは、的を得ていないかもしれぬが、クラブ、学生界に、アダルトリーグへの参加気配が、まったくないだけに、このトーナメントへ〝期待〟が、かかるのである。

日本リーグ、6月23日開幕

日本リーグは、ことし4年目を迎えるが、同運営委員会では、その日程の作成に入り、前期は6月23日開幕で7月22日まで、後期は9月15日開幕で、10月28日最終日の予定である。

ことしから、男子は6チームに縮少され2回総当り、女子は8チームのままだが、1回総当りに変更されている。

女子の日程編成は、前期に13試合、後期に15試合になるものと思われ、原則として、各会場とも、男、女各1試合である。

開催地は、初めて沖縄県が名乗りをあげるなどがあり、完全に軌道へ乗った感じ。

なお、注目のアダルトリーグ(2部リーグ)は、男子は、大崎電気(埼玉)、三景(東京)を加えて6チーム参加の見通しがたったと伝えられるが、正式な発表は行われていない。

女子は、3チーム程度の淋しい内容となりそうで、このあと、運営委が、どのような動きをみせるか、注目される。

女子選手権の部

日本ビクター(茨城①)
ブラザー工業(愛知⑤)
ムネカタ(福島⑦)
東京重機(東京⑨)
ジャスコ(三重③)
大崎電気(埼玉④)
大和銀行(大阪⑨)
北国銀行(石川⑦)
立石電機(熊本⑤)
日立栃木(栃木②)

男子選手権の部

大同特殊鋼(愛知①)
三景(東京⑤)
三陽商会(東京⑥)
日新製鋼(広島④)
本田技研鈴鹿(三重③)
大崎電気(埼玉⑤)
トーナメント(下掲)1位
湧永薬品(広島②)

・○内数字は前回順位

同トーナメントの部

東京重機工業(東京)
新日鉄大分(大分)
川崎重工(兵庫)
日本碍子(愛知)
カネカ(兵庫)
三井石油化学(山口)
丸善石油千葉(千葉)
日鉄建材(大阪)
丸善石油松山(愛媛)
住友銀行(大阪)
三井石油化学(千葉)
金沢市役所(石川)
山光千葉(千葉)
武田薬品光(山口)
北陸電力福井(福井)
自衛隊勝田(茨城)
神戸製鋼(兵庫)
安田生命(東京)
川崎製鉄水島(岡山)
トヨタ自動車(愛知)
住友化学愛媛(愛媛)
大阪ガス(大阪)
トヨタ車体(愛知)
自衛隊千歳(北海道)
自衛隊下総(千葉)
I・H・I呉(広島)
美津濃(大阪)
セントラル自動車(神奈川)
日本鋼管福山(広島)
新日鉄名古屋(愛知)
日本原子力研究所(茨城)
丸善石油下津(和歌山)

新代議員(54・55年度)決まる

日本協会は、今春3月末で現役員の任期満了となるが、代議員会(52名)は、規約にのっとり、昨年12月31日をもって改選を行なった。

新代議員(54・55年度)は別表のとおり(1月15日現在)で、2月25日午前10時から、東京渋谷の岸記念体育会館で代議員会を開き会長、副会長の選出、54年度事業予算、同事業日程、体協・JOC派遣役員などを決める。

近藤、三浦氏が新任

3月の役員改選を前に、5加盟団体は、新年度の日本協会派遣理事を、それぞれ次のように決め、発表した。(敬称略)

実連の近藤金博氏、高体連の三浦公氏が新任、あとの10氏は再任。

なお、日本協会理事の定数は33名以内で、加盟団体10名、ブロック選出9名、会長推せん14名以内と決められており、ブロック選出は2月10日までに、会長推せんは2月25日午後、発表される。

注目の新・全国理事会は、2月25日、東京渋谷の岸記念体育会館に招集される予定。

(加盟団体選出理事・54、55年度)
▽全日本学連、中沢重夫、田中秀夫▽全国高体連 清水正、三浦公
▽全日本実連 山田稔、近藤金博
▽全日本教職員連 遠藤健次、高橋健夫▽全日本自衛隊連 富永劭 古庄昌雄

槙敏夫氏指導でTV教室

NHKでは「テレビスポーツ教室」で、ハンドボールを今年度も2週にわたって放送する。

第1回は、3月24日午後6時～7時(再放送25日午前9時～10時)第2回は、31日午後6時～7時(再放送4月1日午前9時～10時)

指導は、30年にわたる高校監督のキャリアをもつ下関中央工・槙敏夫氏。聞き手は草野アナウンサー。

テーマは、「攻撃面におけるノーマークゾーンのつくりかた」で第1回は、基本技から2対2まで第2回は、3対3からフォーメーションプレー(6対6)まで、下関中央工高部員の実技によって紹介される。

この番組で、高校チームがモデルになるのは、桜台高(愛知、指導・稲石三二氏)、明星高(東京指導・高橋英次氏)について3チーム目。

関東学連が西ドイツ遠征

関東学連は、今年度も、西ドイツへの「研修遠征」を行うことになり、このほど、そのメンバーを次のように発表した。

一行は、男女監督、マネジャーを含め役員10、選手38(男22、女16)で、2月27日成田国際空港から出発、3月14日帰国まで、西ドイツのフランクフルトを中心に、男子6、女子4試合を行う予定である。

男女とも、関東学生リーグのレベルアップを企る目的から、遠征メンバーは、いずれも3年生以下

男子には全日本のGK井藤(日体大)も加わっている。関東学連の西ドイツ遠征は、これで2度目。

○…メンバー…○

【役員】▽団長 福地賢介(関東学連理事長、早大出)▽団長補佐 中沢重夫▽総務 一宮昌平、青木宏治

【男子】▽監督 菅野富夫(早大監督)▽主務 辻仲治(慶大)、片岡正樹(日体大)▽選手・GK 井藤忠英(日体大)、菊島功、譲原昭(ともに早大)、須藤秀一(日大)・FP松井幸嗣、伊藤公英、名嘉賢雄、池田靖、溝部潔(以上日体大)、吉見昌憲、舟橋利昌、犬飼一昭、武藤寛(以上早大)、仲田稔水島勝美、金岡弘康(以上日大)、田口長雄、藤井泉(以上中大)、北川勉、炭本真吾(以上慶大)、三本松俊雄(国士館大)、三宮哲也(大東文化大)

【女子】▽監督 高野亮(東女体大監督)▽主務 小島双葉(日女大体)、小野森幾子(東女大体)▽選手・GK 稲葉安子(日体大)、・FP、高松ひとみ(東女体大)、磯山久美子、川波理子、酒井愛子坂本由美子、浜村尚美、藤本陽子(以上東女体大)、鈴木紀子、石井幸、大崎由季、戸栗峰子、後藤世理子(以上日体大)、鈴木真理子石井貴子、下山京子(以上日女体大)。

全日本学生、ニューカレドニアへ

日本協会は、フランス協会の呼びかけによって行なう「ニューカレドニア島遠征」に、全日本学生選抜チームを派遣することになった。同遠征は、日本、フランス両ナショナルチームによって4月4日から17日まで行なわれる予定だったが、日本協会は全日本学連へ代行を依頼していたもの。

3月に日韓社会人交流

全日本実連は、今春3月に、男女の日韓社会人交流を行なう。

まず、韓国の女子社会人代表が、3月16日から約1週間来日、つづいて全日本男子実連選抜が、3月19日から28日まで訪韓する。

54・55年度代議員

北海道		
青森	太田	尚光
秋田	豊島	慶男
山形	五島	訓二
岩手	箱崎	敬吉
宮城		
福島		
茨城	高嶋	耕義
栃木	桑名	照雄
群馬	高橋	潔
埼玉	金子	永治
千葉	浮谷	貞雄
東京	岡村	昭二
山梨		
神奈川	若崎	重富
新潟	渡辺	五郎兵衛
石川	若山	博
富山	角	勉
福井	竹田	弘
長野	中島	恒夫
愛知	幸村	稔
岐阜		
静岡	久保田	竜治
三重	中根	武彦
滋賀	尾本	和男
京都	岩本	定男
大阪	小西	清海
奈良	森田	正英
和歌山		
兵庫	常松	喬
岡山	永井	恒三郎
広島	平田	幸男
山口	青木	操
島根	右田	耕一
鳥取	松原	紀機
愛媛	高橋	満年
香川	松原	忠
徳島		
高知	川崎	秀雄
福岡	小袋	是郎
佐賀	甲斐	忠義
大分	福田	稔
宮崎	郡司	新
長崎	和田	旬功
熊本		
鹿児島	堀之口	貞男
沖縄	平仲	孝栄
全日本学連	藤松	博
全国高体連	三浦	公
全日本実連	田中	滋章
全日本教職員連	山田	計
全日本自衛隊連	早坂	勢三

(敬称略)

新発売「ハンドボールスペシャル」

世界を制したスペシャル・ラバーシェルソールとは!?

●adidasは世界のスポーツシューズ総合メーカーです。●adidasの3本線はオリジナルです。

ヒールカウンター
adidasの発明、ヒールカウンターはタフな素材でショックや故障からヒールを守り、下肢を支え、3本線とともに素晴しい一体感を形成する大切な役割を果たしています。

Napoli
3155 ナポリ
(赤×白) ¥7,500
●モデル「アテネ」の色違い

Athen
3150 アテネ
(青×白) ¥7,500
●ベロアレザー甲皮
●シェルソール

3本線
adidasのスポーツ力学、解剖学を集大成したユニークなアーチサポーター。「土踏まず」を深々と抱えこみ、これ以上ありえないと評価される足との一体感を約束します。

■ベロアレザー甲皮。つま先、かかと強化。
■スペシャル・ラバーシェルソールは、3つの吸盤とストップ、回転グリップ、各機能をもつ3ゾーンにわかれ、床を正確に、そして安定感ゆたかにとらえ、その結果、あなたは、スピードとパワーに乗った大胆なプレーを、狙い通りに決められます。また、このソール構造は、関節への衝撃からくる傷害を防ぎます。
■つま先部には、9個の通気孔があり、靴内の熱気からくる疲れを抑えました。靴舌にも通気孔を採用。
■足首、かかと、靴舌に、はきごこちを高めるパッドを採用。

Handball Special
(青×白) ¥19,000

すべてのスポーツマンに
3本線のNo.1感覚を。

adidas®

●お求めはadidas®特約店で。
adidas 総代理店 KG 兼松江商株式会社
発売元 KSG 兼松スポーツ用品株式会社 〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3 ☎06-305-1431
〒101 東京都千代田区内神田1-11-13〈橋本ビル〉 ☎03-295-5611

オリンピック前年

全日本、男女ともキャリア不足が問題

モスクワ・オリンピック前年が明けた。

男女とも、今秋11月、最大の難関であるアジア予選が韓国（ソウル市の予定）で開かれる予定だが、すでに、日本協会は、本誌既報のとおり、全体制をととのえ、モスクワへの道を、歩一歩進めている。

残された十一カ月を、どう活用するか。強化周辺を探ってみた。

4月の西ドイツ遠征決まる

モントリオール・オリンピック以降、男子は、比較的、順調にスケジュールを進めている。

一九七七年のアジア選手権優勝一九七八年の世界選手権参加（十六カ国中十二位）、そして、今春四月、チャンピオン国・西ドイツへの遠征が決まった（29頁）。

西ドイツでは、王者ナショナルチームが2試合ほど対戦してくれそうで、メンバーを若返らせた全日本としては、願ってもない舞台となる。

昨春の世界選手権以降、中井、花輪（ともに大同）、佐藤、GK柴田（ともに本田技）が脱けてしまい、ミュンヘン経験者はもちろんのこと、モントリオール組さえ、穂積（湧永）と蒲田（大同）だけになってしまったのだから、この西ドイツ遠征は大きい。

竹野監督らコーチングスタッフは、思い切った若手起用による大型化で、とりあえずは、アジア予選を乗り切り、モスクワへ向かっての強化対策は、代表権獲得後、改めて考えたいとしている。

これまでだと、アジア予選も、本大会（オリンピック）への一過程にすぎなかったが、昨年、女子が世界選手権予選で敗れたことと若返りによるいちまつの不安が、この〝慎重策〟を採らせているといえなくもない。

モントリオール以降、国内では昨年5月、スラビア・プラハ（チェコ）との一試合が、唯一の実戦だが、生駒、池ノ上（ともに湧永）志賀（大阪体大）、GKから転向の斉藤将（秋田教員）などを並べた新布陣は、たしかに大型だ。

これに、モントリオールコンビのほか、柳川、中本（ともに大同）津川（湧永）、斉藤幸（大崎）の実績組、さらに、昨秋〝新たに加ったテクニシャン・山本（湧永）というFP陣は、国内的には、これまでの全日本に見劣りするものではない。問題は、キャリアとチームワークである。

この二つの課題を、秋までにどうこなすか、コーチングスタッフの手腕にかかる。

GK陣は、本田（大阪イーグルス）柴田が辞め、ポカッと穴があいた感じだったが、福井（湧永）が、世界選手権出場で自信をつけ井藤（日体大）、新加入の岡部（大崎）も、早くから国際級といわれた逸材だけに、大きな不安はなさそう。

アジア予選のライバルは、これまでどおり韓国だけとみてよく、このままなら「日本優勢」で、アジア予選を迎えられそうである。

軌道にのった池田体制

女子は、世界選手権予選（昨年6月）での敗退ショックが、どうやら、拭い去られたようだ。

いささかギクシャクとした鈴木―池田の監督交代も、池田新監督が、就任後、精力的に動いて、軌道にのった。

チーム編成も、モントリオール代表の加藤、穂積（ともにビクター）松下、河田（ともにジャスコ）、紀野（立石）らの〝残留〟が確定しチームの柱は、とりあえず成った印象である。

この5人に、清水（ムネカタ）、島田（日立）、千歩（北国）の大型がどうかみ合っていくか。

また、昨秋、新たにリストアップされた染谷（ビクター）、中川（ブラザー）、桑原（立石）ら10選手が、どこまで伸びるかで、チーム力は、ぐっと違ってくる。

GK陣は、山本（ブラザー）が韓国戦での雪じょくに、異常な闘志を燃やしており、ホープ井村（立石）を加えて、期待できる構成だ。ヤングナショナル（16人）のGK矢部（ジャスコ）も、172cmと大型で、やがて〝一軍〟入りすると予想される。

しかし、キャリアの不足は、男子以上に、深刻だ。

ライバル・韓国は、日本に勝ったうえ、僅か3試合とはいえ、世界選手権の場を踏んでいる。

この面では、昨年6月時点より日韓の差は、韓国有利に開いていると考えなければならない。

強化サイドでは、なんとか、2月に東ドイツ招待を実現させたいとしているが、もし、これができれば、勝負は二の次、アジア予選―韓国戦へ向けて、チームの一丸化という、大きなメリットを生むことができる。

なお、11月以降の強化合宿は、ナショナル22人、ヤング16人が合同して進められているが、今春4月以降は、はっきり「モスクワ・オリンピック予選候補」として、20名前後に、しぼりこみ、強化を進めていく方針。また、ナショナルのFP・横山（重機）は、選手生活を退いたため、1月15日現在のナショナルチームはFP19、GK2名に変わっている

プレ・オリンピックはムリ？

JOC（日本オリンピック委）常任委員でもある日本協会・荒川清美理事長は、1月20日の日本協会常務理事会で、今夏7月モスクワで行われる「プレ・オリンピック」のハンドボールに、日本が招かれる可能性は、男女ともほとんどないと語った。

「プレ・オリンピック」は、ソ連最大のスポーツ行事「スパルタキアード」を国際化して行われることが明きらかにされているが、各競技に招待される日本チームはバレーボール、体操、柔道など、ソ連の強化に役立つ競技に限られそうだという。

なお、JOCでは、非招待競技のコーチを視察団として派遣することを考慮中である。

パルパル エブリボディ。

5タイプそろったホンダのパルシリーズ。乗りやすさは共通。お好きなタイプが選べます。

ロードパルの仲間たちが、たくさん走りはじめています。あの道、この道が、急にバラエティ豊かになりました。スタイルいろいろ。色とりどり。乗る人の個性と、パルの個性が…なぜかぴったり合うのです。5タイプそろったパルのうち、あなたのお気に入りはどれですか。もちろん、やさしさ・乗りやすさは、みんなおなじ。気軽にどこかへ散歩、としゃれてみたくなります。

パルはユニーク。新しい仲間も、個性たっぷり。●パルフレイ：エレガントなデザイン。乗り降りのラクなU字フレーム(車体中央)。泥ハネから足もとを守るレッグシールドなど親切設計が特長。●パルホリデー：ユニークなヒップアップ・シート。しゃれた感覚のバーハンドル。タウンで似合うバイクです。●パルディン：スリムなパイプフレーム、イキなクロームメッキ・フェンダーがナウな感じ。

ごぞんじですね、ラッタッタ。
ロードパル――標準現金価格 ¥59,800

クイックスタート、とってもべんり。
ロードパル・L――標準現金価格 ¥64,800

乗るかたへの心くばりがいっぱい。
パルフレイ――標準現金価格 ¥75,000

しゃれたスタイル、タウンで似合う。
パルホリデー――標準現金価格 ¥79,000

ヤングの感覚、ナウなフィーリング。
パルディン――標準現金価格 ¥79,000

ヘルメットをかぶろう HONDA

「私のパル」を持ちましょう。

パルスクール 原付免許の取り方だけでなく、正しい乗り方指導までも実施しているのが「パルスクール」の大きな特長。ていねいにご指導しています。

ホンダクレジット わずかな頭金とかんたんな手続きでお求めいただけます。お支払い方法は、ご予算にあわせていろいろ。クレジットカードはいりません。

★パルスクールとクレジットの詳細は、ホンダ販売店でどうぞ。

本田技研工業株式会社鈴鹿製作所
●〒513●三重県鈴鹿市平田町1907●TEL鈴鹿0593：78－1212〈代表〉

1979年ＪＨＡレフェリーコース要項

主　催　日本ハンドボール協会

主　管　日本ハンドボール協会審判部

目　的　若いそして優秀な審判技術をもつレフェリーを育成することは，目下の急務である。将来ともレフェリーとして活躍しようとする意志をもつ若人の参加を求めて，レフェリーとして必要な課程を教育し，すぐれた人材を得ようとするものである。

実施要領：

1. 期日・期間　前期３月28日・29日・30日（３日間）後期８月下旬（４日間）
2. 開催地　東京都渋谷区神南１－１－１　日本体育協会　会議室ほか
3. 参加資格　満20才以上，25才未満の男女で将来ハンドボール競技のレフェリーとして専念しようと志す者（ただし，昭和55年までは満20才以上35才未満を参加資格とする）。
4. 費　用　参加のために要する費用（宿泊費．旅費など）は，参加者負担とし，宿舎は各自で用意すること。
5. 課　程　本コースは次の課程をおき単位制とする。

	教科	単位
前期	ハンドボール競技規則	10
	審判に関する留意事項　Ⅰ・Ⅱ	6
	複審制に関する規範	4
	審判技術（判定・動き・態度などの実態）	20
後期	競技の運営	4
	日本ハンドボール協会公認審判員規定	4
	スポーツにおけるレフェリーのあり方	6
	審判技術（判定・態度・動きなどの実際）	10
	外国語（英・独・仏のいずれか　Ⅰ）	

6. 単　位　１単位は30分とし，各単位は必要時間数を受講したのちテストを受け，合格したときに認められる。参加したコースにおいて未取得単位（欠席・・不合格など）があった場合には，次回（連続）のコースにおいて再度受講しテストを受けることができる。連続の受講でない場合には，前に取得している単位は無効とする。
7. 取得できる資格　この課程を修了し，全単位を取得した者は日本ハンドボール協会公認審判員Ｂ級として認定され登録される（Ｂ級認定料を納入する）。
8. 参加申込み手続き　所定の様式に都道府県協会審判部長の捺印を受けて，日本ハンドボール協会審判部に昭和54年３月15日（必着）までに申し込む。

1978年度(財)日本体育協会ハンドボール上級コーチ講習会日程

主　催　(財)日本体育協会，日本ハンドボール協会

会　場　東京代々木・日本青少年総合センター

教科と日程・第１日（２月26日・月）

10：40　開講式，13：00　ハンドボール競技の特性及び国際国内組織
15：20　競技規則，19：00　ハンドボールの歴史

・第２日（２月27日・火）

８：30　コーチ論(総論)，10：20　ハンドボールのキネシオロジー
13：00　ハンドボールの適性とトレーニング　19：00　西ドイツの指導法

・第３日（２月28日・水）

８：30　審判法　10：20　コーチ論（ゲームにおけるコーチ）13：00　技術と技導法
15：20　戦術と指導法　19：00　コーチ論（他競技の場合）

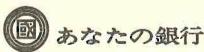
・第４日（３月１日・木）

８：30　コーチ論（女子の指導法）　10：20　コーチ論（トレーニングの評価とその処方）
13：00　技術と指導法　15：20　戦術と指導法　19：00　世界情勢

・第５日（３月２日・金）

８：30　ゲームの評価方法とその処置　10：20　傷害とその処置
13：00　個人戦術と指導法　19：00　全般にわたっての破究・討論

・最終日（３月３日・土）

８：30　テスト　13：00　閉講式

プレス・ルーム ＜16＞

杉　山　茂
——NHK運動部—

■面白かった「全日本総合」

今年の全日本総合選手権は、例年にまして面白かった。

理由は、いろいろ考えられる。男子は、久々に学生勢が活躍、なかでも日体大が、王者・大同特殊鋼をいちちは押しまくるほどの勢いを見せたのが、よかった。

しかも、戦い終って、工藤主将ら最上級生たちが「大同に勝つつもりでいた」といったのは、驚いたし、嬉しい心意気であった。

最近の学生チームは、どうも星勘定が多すぎる。自分たちが、最大の目標といっている春秋のリーグ戦さえ、始めから「四勝三敗が目標です」などと、平気でいう。

まあ、我が身をかえりみず、「優勝々々」と騒ぎ立て、豪語し放題というのも、どうかと思うが、それにしても、覇気に欠けているチームが多い。

あとから話を聞きにいくと、スポーツ新聞の読みすぎか、テレビの見すぎか知らないが「負けるつもりで、試合をするハズはないじゃないですか」などと、開き直られる。

こちらが、トシをとったのかもしれないが、清々（すがすが）しくない学生チームというのは、イヤだ。どんな時にも、学生スポーツマンは、プロの真似みたいな言葉は、使って欲しくない。

話がそれた。その点、今回の日体大は、よく訓練されていた。こういうチームが、善戦する時は、大会そのものも、盛りあがるものである。

決勝戦が、男女とも、まれにみる白熱戦となったのも、いっそう好印象を残した。

テレビを観ていた多くのかたもハンドボールの面白さを、再認識されたようだ。

ブラザーの大逆転、湧永×大同のみごとな横綱相撲、スター蒲生の鮮やかなプレー。三拍子も、四拍子も揃って、ブラウン管から熱気が伝わった。

三十年目を迎えた大会としては誠に結構なことで、ハンドボールの大会は、つねに、こうあって欲しい。

なにも特別な＜演出＞は要らないのだ。参加するチームが、ともかくも60分間なり、50分間なりを最善をつくして戦かいあえば、それで充分である。

この点を、プレイヤーばかりでなく、すべての人が、認識し合うことを望みたい。

日本ハンドボール界は、いぜん多くの課題を抱えているが、つまるところは、コート上で、よいプレー、すばらしいプレーを展開するのが、最善、無二の解決法である。

そして、そのためにレフェリー技術の向上、大会運営の研究などが、不可欠となってくる。

日本協会が、今大会後、どのような反省会を開いたかは、しらないが、少くとも、ファン、愛好者は、久々の熱斗に酔えた。

オリンピック前年、上々のスタートといっていい。

■「スポーツイベント」紙の健斗

スポーツイベント社(東京)の発行している「ハンドボール」紙が〝健斗〟をつづけている。

毎月二回のこの新聞。実は、発刊にあたっては、僕も、いろいろ相談をうけたが、日本のハンドボール界に、いわゆる＜商業紙＞が成り立っていくものなのかどうかかなりの冒険のように思えた。

それが、同社の話では、なんとか定着しはじめているそうだ。創刊して、すでに一年二カ月ほどが経っている。

話を聞いた時、なによりも嬉しいと思ったのは商業ベースの、それが新聞であれ、雑誌であれ、日用雑貨品であれ、スポーツシューズであれ、そうした〝採算〟を第一義で考える世界が、ハンドボールに注目、着目してくれたことである。

純粋には、アマチュアスポーツというのは、こうしたことに手放しで喜んではならないものだろう

だが、競技の普及、つまり、愛好者、同好の士を増やすためにはあらゆる機会をつかって、知名度を高めなければ、いけない。

そうした基盤がガッチリした上に立って、それぞれの人が、自分の目的で、ハンドボールに接すればいいわけなのだが、日本ハンドボール協会という所は、これまであまりにも、こうした点で、かたくなにすぎた。

スポーツ（ハンドボール）に、教育性、精神性は、もちろん大切である。それあってこそ始めて…という論理も、結構だ。

だが、ハンドボール界の遅れ、けしてその論理ばかりが＜原因＞ではなかった。ズバリいうなら、時代感覚にズレがありすぎた。

スポーツイベントの「ハンドボール」紙出現は、オーバーにいうなら、日本ハンドボール界を変える期待さえ、かかる。

＜日本協会＞という組織が、論評の矢面に立たされたり、有力選手に、華やかなスポットがあてられたりする。かつて、あまり無かったことだ。

それだけに、戸まどいがあるのも判る。

だが、月日が経つうちに、だんだん、この新聞を手にとる人が多くなってきているのも事実だ。

日本ハンドボール界が、大きく成長していく過程のなかには、いろいろなコトが起きる。これもその一つ。同紙の発展を祈りたい。

世界男子Cグループ
スイスが初優勝飾る

第2回世界男子選手権Cグループが、昨秋11月10日から18日まで行われ、スイスが地元の利を活かして初優勝、ノルウェー、オーストリア、イスラエルとともにBグループ進出を決めた。

大会には、ヨーロッパ地域の9カ国が参加、3カ国づつ3組の予選リーグのあと、各組上位2カ国によって決勝リーグを争った。

予選リーグでは、ほとんど波乱はなく、上り調子といわれたフインランドがイスラエル、オーストリアにはさまれて失格した以外は予想どおりの顔ぶれが勝ちあがった。

決勝リーグは、スイス有利のあとを追う2～4位争いが焦点だった。

スイスの対抗と目されたノルウェーが、ポルトガルに手痛い1敗を喫し、そのポルトガルがイタリア戦を落とすという混戦模様。

アジアから転籍したイスラエルは、予選でオーストリアに快勝して波にのり2位に食いこんだ。

優勝したスイスは、ホームコートの利も手伝っていたが、ユーゴから招いたヤニッチ監督の、東欧顔まけの積極的強化策が、みごとに実を結び、ヨーロッパ専門筋には、このまま、Bグループをも、かけ抜けるのではないかというみかたさえある。

この大会は、参加した各国にとっては、モスクワオリンピックの1次予選という意味あいもあり、Bグループへ進めなかった5カ国は、この時点で、オリンピックへの道を失った。

個人得点は、B・グス（イスラエル）の40点をトップに、インゲブリグステン（ノルウェー）32、コルクジイツク(オーストリア)、レイラ（ポルトガル）、シャール（スイス）各28が主なところ。

スイスの主力は、ツーリング26ナヒト24で、かつて、日本を苦しめたイスラエルのレフラーも健在26ゴールをマークした。

▽予選リーグA組

スイス 28（14－3、14－7）10 ルクセンブルグ
ポルトガル 25（13－11、12－7）18 ルクセンブルグ
スイス 27（16－10、11－9）19 ポルトガル

▽同B組

イスラエル 22（9－8、13－3）11 フインランド
オーストリア 27（16－14、11－8）22 フインランド
イスラエル 17（10－5、7－6）11 オーストリア

▽同C組

イタリア 16（9－8、7－6）14 ファロー諸島
ノルウェー 27（16－8、11－7）15 ファロー諸島
ノルウェー 21（12－9、9－5）14 イタリア

▽決勝リーグ

スイス 27（14－9、13－6）15 イタリア
イスラエル 23（11－7、12－12）19 ポルトガル
ノルウェー 21（9－9、12－7）16 オーストリア
スイス 27（10－13、17－7）20 イスラエル
ポルトガル 20（10－8、10－8）16 ノルウェー
オーストリア 20（8－9、12－7）16 イタリア
スイス 25（13－4、12－10）14 オーストリア
イタリア 25（14－8、11－14）22 ポルトガル
ノルウェー 24（12－9、12－13）22 イスラエル
スイス 25（15－12、10－8）20 ノルウェー
オーストリア 27（14－13、13－12）25 ポルトガル
イスラエル 26（9－10、17－9）19 イタリア

スイス×ポルトガル、イスラエル×オーストリア、ノルウェー×イタリアは、予選リーグの記録を適用

【順位】①スイス5戦全勝②イスラエル3勝2敗（得失点差8）②ノルウェー3勝2敗（5）④オーストリア2勝3敗～以上Bグループへ～⑤ポルトガル1勝4敗（マイナス2）⑥イタリア1勝4敗（マイナス28）

Bグループは2月に

IHF(国際ハンドボール連盟)は、2月22日から3月3日までスペインで開く第2回世界選手権Bグループの参加国と、その予選リーグの組み分けを発表した。

予選リーグ4組の各上位2カ国が、さらに二つに分かれて準決勝リーグを行ない、各組同順位で1～8位を争うシステムだが、1、2位両国(準決勝リーグ各組勝者)に、モスクワオリンピックヨーロッパ代表権が与えられる。

▽予選リーグA組 スウェーデン ブルガリア、ノルウェー
▽同B組 ハンガリー、フランス スイス
▽同C組 スペイン、オランダ、オーストリア
▽同D組 チェコ、アイスランド イスラエル

モスクワ五輪 モスクワ・オリンピックのハンドボール競技は、来年7月21日から30日まで、男子12、女子6カ国によって行われる。

男子12のうち、すでに、昨春の世界選手権で西ドイツ、東ドイツ、デンマーク、ユーゴ、ポーランド、ルーマニアと開催国・ソ連の計7カ国の出場が決まっており、残る5は、前掲のBグループで2、アジア、アフリカ、アメリカ大陸から各1となっている。（女子については、本誌15頁参照）

全日本、西独へ遠征

日本協会は、かねてからモスクワオリンピック強化への一環として、男子ナショナルチームの西ドイツ遠征を計画していたが、このほど、西ドイツ協会から、受け入れ承諾の連絡が入った。

それによると、遠征は3月末から4月10日まで、世界チャンピオン・西ドイツと2試合のほか、ジュニアナショナル、国内リーグの上位チームなど5～6試合の予定が組まれている。

日本協会では、西ドイツのあと二～三カ国の転戦を計画、ポーランド、チェコ、スウェーデン、フランス、オーストリアなどを、その候補にあげている。

遠征メンバーは、さきに発表された新・全日本から選ばれることになり、早ければ、2月25日の新全国理事会で発表される。

今秋の、オリンピックアジア予選（1頁参照）を前に、世界最強の西ドイツへ遠征することが決まったのは朗報で、成果が大いに期待される。

Victor
"HIS MASTER'S VOICE"

お好みのオプションが選択装着できる新機構！
リモコンか、タイマーか？

セットポン

確かな基本性能による鮮明画像に、ビデオ時代の充実装備を搭載。ビデオやオーディオを組み合わせて、見る楽しさに使う楽しさをプラス。ダイレクト選局リモコン、またはデジタルタイマーが組み込める「セットポン」をはじめ豊富な機能をそなえています。

リモコン

タイマー

ダイレクト選局リモコン送信部

〈新発売〉
18型 C-1878E
本体・標準価格155,000円（アンテナ工事費別）
●ビデオ収納置台、リモコン、タイマー、ビデオカセッターなどは別売りです。

ビデオ／電子チャンネル PART-II

■ビクターローン・システム（銀行ローン、ニッパーLプラン）をご利用ください。

ビクター純白カラー

雷災からゴルファーを守る大崎のFYケージ

東京ゴルフ倶楽部

いま、安全なゴルフ場作りが、社会的なニーズを呼んでいます。

もしプレー中に雷に会ったら、せっかくのナイスショットも、命がけで逃げなければなりません。そんな時、安全な待避小屋が備えてあれば、あなたのゴルフ場は完璧です。
落雷は、時、場所、人を選びません。安全な待避小屋→大崎のＦＹケージを適所に設置して中に入れば、雷災から完全に保護されます。

大崎電氣工業株式會社
本社 東京都品川区東五反田二丁目二番七号
☎（03）443－7171（大代表） 〒141

FYケージ

防雷シエルター
工業所有権出願中
特許３件
実用新案４件
意匠５件
商標１件

有斗クが4度目の優勝

各地の記録

第18回全道室内選手権は、12月24日から2日間、札幌市の中島スポーツセンターに男子16チームが集まり、トーナメントで争われた。学生チームが8チームエントリーして、注目されたが、いずれも準々決勝で姿を消し、クラブ勢となり、優勝争いは例年どおり、函館有斗クが、準決勝で青雲クに逆転勝ちした余勢をかい、決勝では大谷クに完勝、2年ぶり4度目の優勝を飾った。

▽1回戦
北海学園大 13―9 函館教大
千歳ク 不戦勝 北見工大
大谷ク 22―10 アル・タイル
北大 14―11 室蘭工大
釧路教大 11―9 札幌ク
青雲ク 20（延）16 北星学園大
有斗ク 19―16 エルム・ク
日体ク 24―9 北海道工大
▽準々決勝
千歳ク 19―11 北海学園大
大谷ク 13（延）11 北大
青雲ク 18―13 釧路教大
有斗ク 26―10 日体ク
▽準決勝
大谷ク 18（7―6 11―5）11 千歳ク
有斗ク 20（13―5 7―10）15 青雲ク
▽決勝
有斗ク 25（15―3 10―6）9 大谷ク

高知クが3年ぶり

第7回四国クラブ選手権（男子のみ）は、12月3日高知市で行われ、予選リーグを勝ちあがった高知ク×讃岐ク（香川）の決勝から、高知クが前半のリードを活かして制勝、3年ぶり3度目の優勝を飾った。四国選手権1位の讃岐クの二冠は成らなかった。

▽予選リーグA組
讃岐ク（香川） 不戦勝 城北OB（徳島）
中村ク（高知） 不戦勝 城北OB
讃岐ク 18―11 中村ク
▽同B組
高知ク（高知） 25―11 坂出工ク（香川）
高知ク 15―14 松山ク（愛媛）
松山ク 26―18 坂出工ク
▽決勝
高知ク 19（10―11 9―4）15 讃岐ク

大同、本田技に完勝

第14回東海実業団選手権は、11月26日、四日市市に新設されたジャスコ体育館で決勝トーナメントを行ない、予想どおり大同特殊鋼（愛知）×本田技研鈴鹿（三重）の決勝となり、大同が快勝、2年ぶり8度目の優勝を手にした。
日本リーグで、土たん場まで大同を押しまくった本田の試合ぶりに期待がかかったが、この日は、スタートから元気なく、大同の一方的とも思える経過になった。
なお、女子は、すでに5月に終っており、ジャスコ（三重）が優勝している。

▽決勝トーナメント1回戦
大同特殊鋼（愛知） 25（14―6 11―6）12 新日鉄名古屋（愛知）
本田技研鈴鹿（三重） 25（14―7 11―2）9 トヨタ車体（愛知）
▽3位決定戦
トヨタ車体 17（10―8 7―8）16 新日鉄名古屋
▽決勝
大同特殊鋼 26（13―8 13―7）15 本田技研鈴鹿

女子は浦添商高勝つ

▼沖縄県総合選手権（11月・那覇）
▽男子準々決勝
沖縄教員 27―23 興南高
首里高 20―18 沖縄国際大
浦添高 23―15 那覇工高
琉球大 24―18 興南OB
▽同準決勝
沖縄教員 29―23 首里高
琉球大 22（延）21 浦添高
▽同決勝
琉球大 32（20―11 12―12）23 沖縄教員
▽女子準々決勝
興南OG 21―10 豊見城高
浦添高 13―4 名護高
興南高 19―5 真和志高
浦添商高 15―8 前原高
▽同準決勝
興南OG 記録不明 浦添高
浦添商高 10―9 興南高
▽同決勝
浦添商高 13（4―7 9―3）10 興南OG

スワロー兵庫、神鋼おさえる

▼兵庫県秋季一般選手権（11月・神戸）
▽男子準々決勝
スワロー兵庫 不戦勝 垂水ク
鈴蘭台ク 19―13 兵庫ダイハツ
友幸ク 22―10 神戸HBC
神戸製鋼 30―5 鉄鋼短大
▽同準決勝
スワロー兵庫 34―9 鈴蘭台ク
神戸製鋼 33―12 友幸ク
▽同決勝
スワロー兵庫 14（7―7 7―6）13 神戸製鋼
▽女子1回戦（1試合）
武庫川ク 不戦勝 鈴蘭台OB
▽同決勝
風見鶏ク 11（7―2 4―8）10 武庫川ク

女子は東邦高が初

▼第5回千葉県総合選手権（1月・市原市）
▽男子準々決勝
千葉教員 27―12 木更津補給所
丸善石油 26―14 佐原高
三井石油 25―11 千葉南高
清水ク 17―10 佐原ク
▽同準決勝
千葉教員 27―10 丸善石油
三井石油 20―16 清水ク
▽同決勝
千葉教員 22（11―3 11―3）6 三井石油
▽女子準々決勝
佐原女高 10―1 東邦ク
流山中央高B 不戦勝 千葉大
東邦高 13―9 水郷ク
流山中央高 16―0 沼南高
▽同準決勝
佐原女高 7―5 流山中央高B
東邦高 7―6 流山中央高
▽同決勝
東邦高 13（4―2 9―2）4 佐原女高

男子で長野教員2連勝

▼第18回長野県総合選手権（1月戸倉町・坂城町）
▽男子準々決勝
長野教員 20―9 如月ク
かつらお 33―17 小諸商高
北農ク 14―4 鳩ケ丘
上田ク 22―19 北佐久農高
▽同準決勝
長野教員 17―16 かつらお
上田ク 13―5 北農ク
▽同決勝

長野教員 20（9－7、11－8）15 上田ク

▽女子準々決勝

小諸商ク 17－12 佐久高

愛球会 4－3 小諸商高B

臼田高 11（延）10 北佐久農高

小諸商高 12－10 美須々ケ丘高

▽同準決勝

小諸商ク 16－5 愛球会

小諸商高 16－1 臼田高

▽同決勝

小諸商ク 11（4－8、7－0）8 小諸商高

八幡工OBと彦根南高

▼第12回滋賀県総合室内選手権（1月・彦根）

▽男子準々決勝

八幡工OB 22－11 高島高

京都セラミック 13－10 彦根東高

八幡工高 30－18 滋賀教員

高島ク 17－11 米原高

▽同準決勝

八幡工OB 22－8 京都セラミク

八幡工高 16－15 高島ク

▽同決勝

八幡工OB 24（12－8、12－6）14 八幡工高

▽女子1回戦（3試合）

大津商高 8－5 鳥居本中学

彦根南高 12－2 大津商OB

守山女OG 9－2 高島高

▽同準決勝

大津商高 8－4 守山女高

彦根南高 11－5 守山女OG

▽同3位決定戦

守山女高 12－7 守山女OG

▽同決勝

彦根南高 8（4－1、4－2）3 大津商高

前橋ピジョンズ敗れる

▼第19回群馬県総合選手権（1月前橋）

▽男子準々決勝

富岡高OB 17－15 前工ク

藤岡ク 15－11 吉井高OB

富岡ク 35－17 下仁田高OB

群馬教員 28－23 富岡高

▽同準決勝

富岡高OB 15－10 藤岡ク

群馬教員 41－22 富岡ク

▽同決勝

群馬教員 25（14－9、11－10）19 富高OB

▽女子準々決勝

前橋ピジョンズ 11－10 群女短OG

全前橋商 11－9 下仁田高

群女短大付高 13－6 佐藤学園高

前橋市女高 12－8 前橋東OG

▽同準決勝

前橋ピジョンズ 14－6 全前橋商

群女短大付高 12－7 前橋市女高

▽同決勝

群女短大付属高 10（7－3、3－6）9 前橋ピジョンズ

自衛隊勝田、貫録示す

▼第5回茨城県一般男子室内選手権（1月・笠間市）

▽準々決勝

笠間ク 22－16 日本原子力研

自衛隊勝田 28－7 自衛隊古河

茨城大 20－12 筑波会

茨苑ク 27－6 自衛隊霞ケ浦

▽準決勝

自衛隊勝田 26－11 笠間ク

茨城大 17－11 茨苑ク

▽決勝

自衛隊勝田 20（12－8、8－7）15 茨城大

下関中央工、PTSで退く

▼第2回山口県高校新人選手権（1月・岩国市）

▽男子準々決勝

徳山 15（分）15 下関中央工

PTC2－1で徳山の勝ち

岩国工 37－10 徳山工

山口 15－11 下関工

下松 17－4 下松工

▽同準決勝

徳山 12－9 岩国工

下松 13－9 山口

▽同決勝

下松 18（9－7、9－6）13 徳山

▽女子準々決勝

下関西（響）9－1 美弥中央

徳山商 3－1 徳佐

岩国商 23－1 早鞆

徳山 14－4 山口中央

▽同準決勝

徳山商 9－1 下関西（響）

徳山 9－3 岩国商

▽同決勝

徳山 14（4－4、10－2）6 徳山商

▼第9回青森県高校「教育長杯」争奪選手権（1月・青森市）

▽男子準々決勝

青森商 21－9 五所原商

青森 17－8 七戸

野辺地 26－9 柏木農

三本松 17－11 青森南

▽同準決勝

青森商 15－8 青森

野辺地 27－8 三本松

▽同決勝

青森商 22（12－8、10－7）15 野辺地

▽女子1回戦（1試合）

三本木 11－4 青森中央

▽同準決勝

青森西 14－3 野辺地

七戸 7－1 三本木

▽同決勝

青森西 14（9－0、5－2）2 七戸

山本孝男氏逝く

かつての全日本選手で、現役引退後、レフェリーとして活躍していた大阪・山本孝男氏（四六）が、1月6日夜、心不全のため、大阪の自宅で、突然、亡くなられた。

山本氏は、熊本玉名高から日体大へ進み、バックス（11人制）として、昭和31年の西ドイツ戦全日本に選ばれるなど、絶妙のディフェンスに定評があった。

卒業後、大阪イーグルスでプレー、かたわらレフェリーとしても秀れたセンスで、鮮やかなジャッジングをみせていた。

1月の全日本総合へ参加の決まった矢先でのご不幸。心からごめい福を祈ります。

山本氏の他界で、日本協会審判員A級ライセンス保持者は94名。

センバツへ勝ち名のり

【速報】3月25日から3日間、名古屋の愛知県体育館で行われる第2回全国高校選抜大会へ出場する各ブロック代表校が、決まりはじめている。

初名乗りをあげたのは、北海道代表で、男子が函館有斗、2年連続、女子が初出場の釧路湖陵。いずれも12月24、25日、札幌で行われた全道高校新人大会で優勝したものだ。

また、北信越代表は、1月14、15の両日柏崎で行われ、男子は氷見（富山）、女子は昨夏の全日本高校選手権優勝校、小松市女高（石川）が、開催地（愛知県）代表には、男子が中京、女子が名古屋短大付属に決まり、それぞれ出場権を手にした。2月12日までに男女各10校の代表が勢揃いする

興奮再現。

BIG SOUNDS
実用最大出力4.2W
TRK-8030 ￥43,800

持ち運んで楽しむか

クリアでナチュラルな音質の実用最大出力4.2W(2.1W＋2.1W、EIAJ/DC)のパワー。12cmウーハー(中低音域用)と3.5cmツイーター(高音域用)採用のスピーカー・システムが再現するリアルなパワーサウンド、心ゆくまでお楽しみください。

- ●FM／AM2バンドラジオつき
- ●(クロム／ノーマル)テープセレクター採用
- ●フルオートストップ
- ●外部スピーカー端子つき(別売り APS-80)使用
- ●ラインイン、ラインアウト端子、マイク端子(R用、L用各1個)つき

ステレオパディスコ8030 TRK-8030 ￥43,800

●電源DC：9V(単1×6) AC：100V 50/60Hz カーアダプター(別売りD-70) ●大きさ 幅41.2×高さ25.6×奥行12(cm) ●重さ 5.0kg(乾電池含む)

システムパディスコ

組んで楽しむか

パディスコ8030はシステムアップできるラジオカセット。専用外部スピーカー(APS-80)の接続により、迫力あるステレオ・サウンドがさらに倍増。また、プレヤー(HT-320)を接続すればレコード音楽も楽しめます。(MM形カートリッジイコライザー MCE-70が必要)

- ●専用外部スピーカー、APS-80 別売り 2本セット￥11,800
- ●レコードプレヤーHT-320 別売り ￥25,800(レコードプレヤーを接続するにはMM形カートリッジイコライザー〈MCE-70〉別売り ￥4,500が必要です)

▲上の写真はステレオパディスコ8030をシステムアップしたものの一例です。

★カセットレコーダーで録音したものは、個人として楽しむなどのほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

★商品のお問合せ、クレジットのご相談、カタログのご請求は、お近くの日立の家電品取扱店へお気軽にどうぞ。

品質を大切にする〈技術の日立〉

HITACHI CASSETTE RECORDER

日立家電販売株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館)TEL(03)502-2111

日立クレジット株式会社 〒105 東京都港区西新橋2-15-12(日立愛宕別館)TEL(03)503-2111

★「日立カセットレコーダーの保証書」は必ずお受けとりください。お買い上げの際に、販売店名、ご購入年月日が記入されているかを、お確かめになり、大切に保存してください。

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一七〇号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五三年十二月二十五日印刷 昭和五四年一月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表(467)七〇九七
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 荒川清美
定価 三百五十円
(年間購読料 三千三百円)